資料3－3

# 令和7年度保護林モニタリング調査の結果を踏まえた次回以降の取扱い（個票）

令和8年3月3日

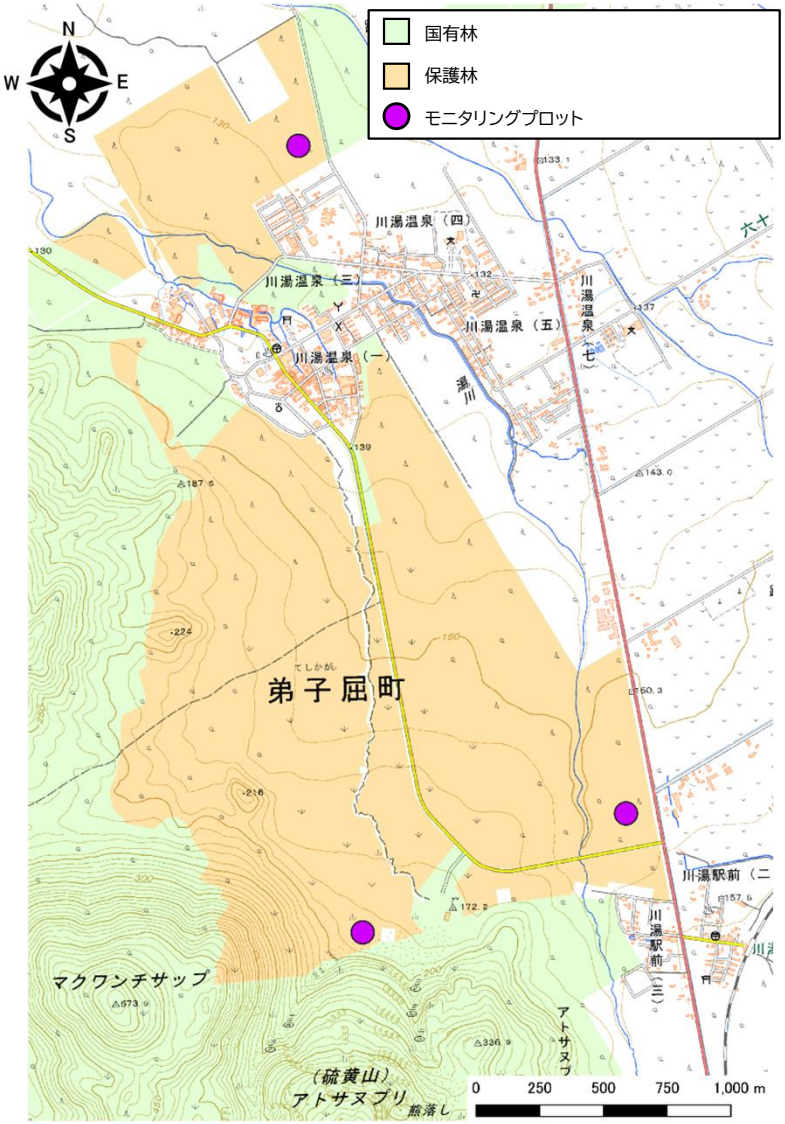
北海道森林管理局

（希少種の情報が含まれるため一部非公開）

# 令和7年度保護林モニタリング調査の結果を踏まえた次回以降の取扱い（個票）

## 川湯硫黄山生物群集保護林

| 面積 | 358.40 ha | 保護対象 | 硫黄山周辺の生物群集を有する森林 |
|---|---|---|---|
| モニタリング間隔 | 5年ごとにモニタリング | | |




※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

### 令和7年度モニタリング評価・課題・提案

確認された影響【野生鳥獣】
・針広混交林の立木は比較的健全であった。
・林床ではシカの食痕が多数確認された。
・保護林は良好に保護・管理されているといえるが、エゾシカの影響を注視していく必要があるため、モニタリング間隔を5年ごとに変更し、林分の状況及び天然更新過程を観察していく。

【モニタリング調査項目】
・森林詳細調査（樹木・下層植生・病虫害等）：3地点

### 次回以降の取扱い（案）

令和7年度モニタリングでは、臨時の森林詳細調査を行った。
今回のモニタリングにおいて、シカの影響が顕著に確認されたため、モニタリング間隔を10年から5年に変更し、令和12年に森林詳細調査を行うこととする。

【モニタリング調査項目】
＜必須項目＞
・森林詳細調査（樹木・下層植生）：3地点
＜選択項目＞
・森林詳細調査（病虫害等）等：3地点※
※樹木・下層植生の森林詳細調査と同一地点で実施

# 令和7年度保護林モニタリング調査の結果を踏まえた次回以降の取扱い（個票）

## 千歳シラネアオイ希少個体群保護林

| | | | |
|---|---|---|---|
| 面積 | 13.88 ha | 保護対象 | シラネアオイ |
| モニタリング間隔 | 森林調査は5年ごと、シラネアオイの開花状況については毎年早春期にモニタリング | | |

希少種の情報が含まれるため非公開

※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

### 令和7年度モニタリング評価・課題・提案

確認された影響【野生鳥獣】
・シラネアオイの生育数は極めて少ない。
・立木は比較的健全だった。
・下層植生においてシカの痕跡が非常に多く確認された。
・シラネアオイ個体群の維持を目指す場合は早急なシカ対策が必要である。

【モニタリング調査項目】
・森林詳細調査（樹木・下層植生・病虫害等）：2地点

### 次回以降の取扱い（案）

令和12年に森林詳細調査を行うこととする。
なお、本保護林は植物生態学上貴重なシラネアオイ群落があるため設定された保護林であり、シラネアオイへのシカの顕著な影響が確認されているため、令和8年にシカ侵入防止対策を行うこととする。

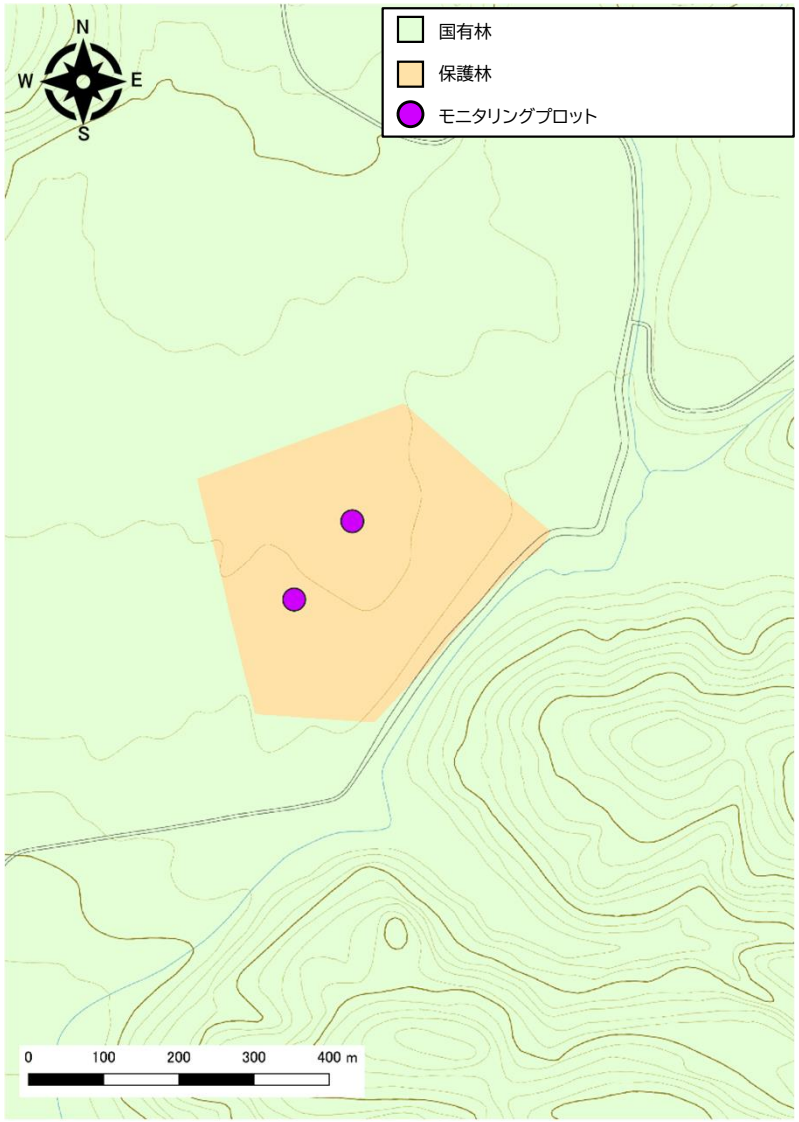
【モニタリング調査項目】
＜必須項目＞
・森林詳細調査（樹木・下層植生）：2地点
＜選択項目＞
・森林詳細調査（病虫害等）等：2地点※
※樹木・下層植生の森林詳細調査と同一地点で実施

【復元】
・シラネアオイが生育している箇所の周囲をシカ防止ネットで囲うこととする。

# 令和7年度保護林モニタリング調査の結果を踏まえた次回以降の取扱い（個票）

## 滝の上第2アカエゾマツ遺伝資源希少個体群保護林

| 面積 | 12.69 ha | 保護対象 | アカエゾマツ |
|---|---|---|---|
| モニタリング間隔 | 5年ごとにモニタリング | | |




※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

### 令和7年度モニタリング評価・課題・提案

確認された影響[自然撹乱]
・アカエゾマツは風害により大きな被害を受けている。
・アカエゾマツの天然更新はわずかである。
・今後はトドマツ主体の林分に遷移していくと思われる。
・今後は5年ごとに詳細調査を実施し、対応を検討する。

【モニタリング調査項目】
・森林詳細調査（樹木・下層植生・病虫害等）：2地点

### 次回以降の取扱い（案）

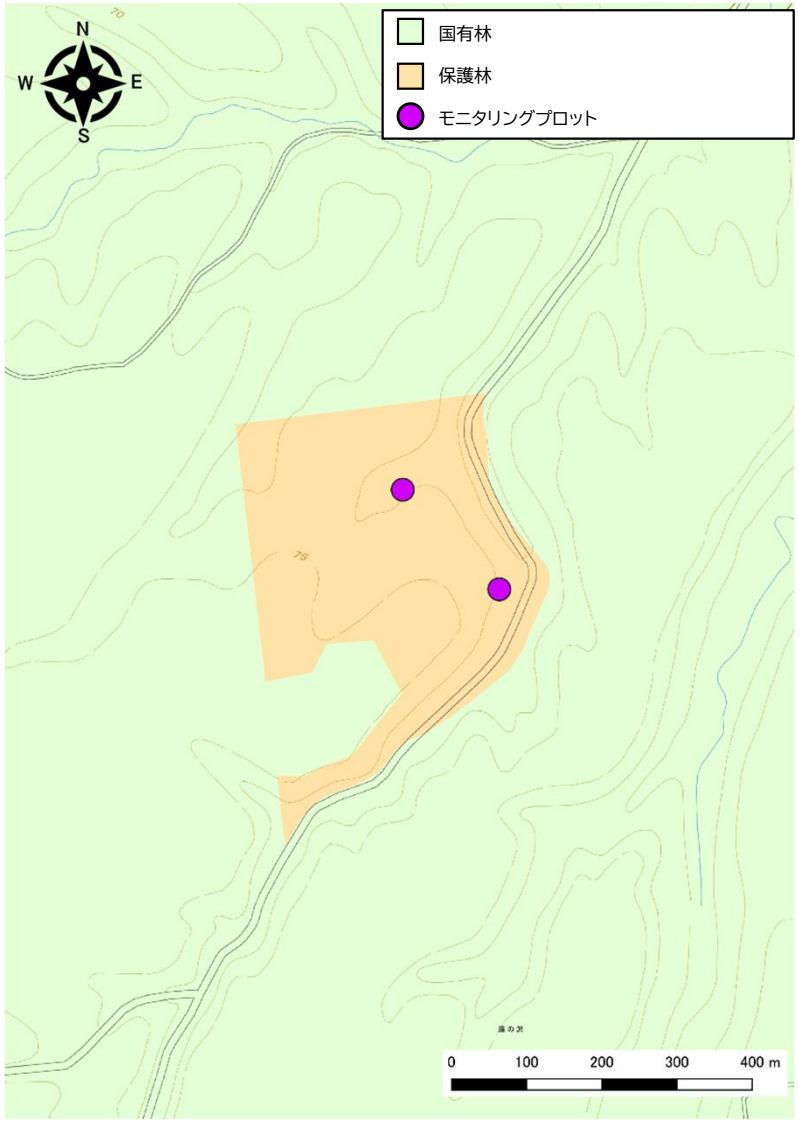
令和7年度モニタリングにおいて、風害の影響が顕著に確認されたため、モニタリング間隔を10年から5年に変更し、令和12年に森林詳細調査を行うこととする。

【モニタリング調査項目】
＜必須項目＞
・森林詳細調査（樹木・下層植生）：2地点
＜選択項目＞
・森林詳細調査（病虫害等）等：2地点※
※樹木・下層植生の森林詳細調査と同一地点で実施

# 令和7年度保護林モニタリング調査の結果を踏まえた次回以降の取扱い（個票）

## 千歳アカエゾマツ遺伝資源希少個体群保護林

| 面積 | 12.69 ha | 保護対象 | アカエゾマツ |
|---|---|---|---|
| モニタリング間隔 | 5年ごとにモニタリング | | |




※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

### 令和7年度モニタリング評価・課題・提案

確認された影響[自然攪乱]

・前回調査時よりも以前に中程度の風害を受けていたが、今年度の調査では新たな立木の被害はなく、比較的健全な状態であった。

・林床ではアカエゾマツの稚樹や低木が多く確認された。

・今後は、5年おきに詳細調査を実施して、林分の回復状況等を観察していくことが望ましい

【モニタリング調査項目】

・森林詳細調査（樹木・下層植生・病虫害等）：3地点

### 次回以降の取扱い（案）

風倒及び病虫害対策の森林整備後の状況を確認するため、モニタリング間隔を10年から5年に変更し、令和12年に森林詳細調査を行うこととする。

【モニタリング調査項目】

＜必須項目＞

・森林詳細調査（樹木・下層植生）：2地点

＜選択項目＞

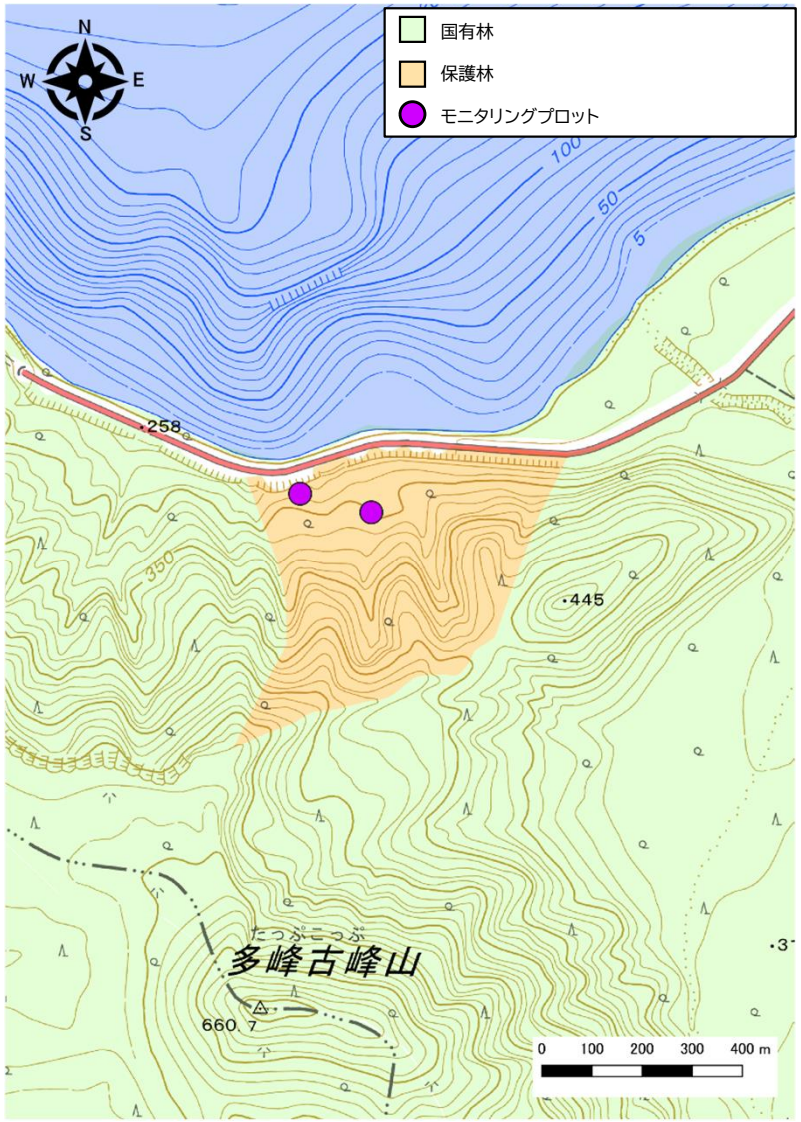
・森林詳細調査（病虫害等）等：2地点※

※樹木・下層植生の森林詳細調査と同一地点で実施

# 令和7年度保護林モニタリング調査の結果を踏まえた次回以降の取扱い（個票）

## 支笏ウダイカンバ等遺伝資源希少個体群保護林

| 面積 | 23.22 ha | 保護対象 | ウダイカンバ、ハリギリ |
|---|---|---|---|
| モニタリング間隔 | 5年ごとにモニタリング | | |




※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

### 7年度モニタリング評価・課題・提案

確認された影響[野生鳥獣]
・ウダイカンバ、ハルニレの立木は健全であった。
・ハリギリの実生は確認されたが、ウダイカンバの実生はほとんど確認されなかった。
・下層植生ではエゾシカの食痕が確認された。広葉樹実生が少ないため、食害を受けている可能性が考えられる。
・ウダイカンバは陽樹であり、その他広葉樹林への遷移過程の可能性がある。
・今後は5年おきにモニタリングを実施し、天然更新に留意していく。

【モニタリング調査項目】
・森林概況調査（樹木・下層植生・病虫害等）：1ルート

### 次回以降の取扱い（案）

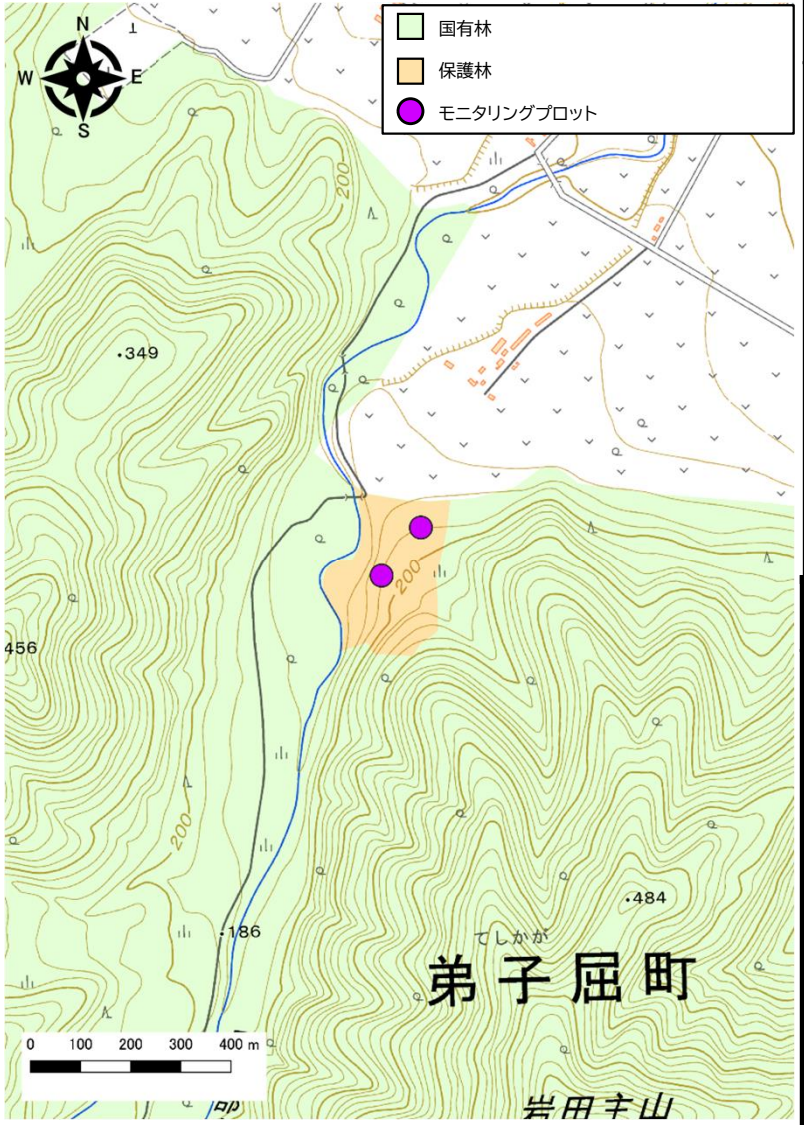
エゾシカによる影響が顕著に確認されたため、モニタリング間隔を10年から5年に変更し、令和12年に森林概況調査を行うこととする。

【モニタリング調査項目】
＜必須項目＞
・森林概況調査（樹木・下層植生）：1ルート
＜選択項目＞
・森林概況調査（病虫害等）等：1ルート※
※樹木・下層植生の森林概況調査と同一ルート上で実施

# 令和7年度保護林モニタリング調査の結果を踏まえた次回以降の取扱い（個票）

## 屈斜路ウダイカンバ遺伝資源希少個体群保護林

| 面積 | 5.66 ha | 保護対象 | ウダイカンバ |
|---|---|---|---|
| モニタリング間隔 | 5年ごとにモニタリング | | |




※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

### 7年度モニタリング評価・課題・提案

確認された影響[野生鳥獣]
・ウダイカンバの立木は健全であった。
・ウダイカンバの稚樹等は確認されなかった。
・林床ではエゾシカの食害が多くみられた。
・今後は5年おきにモニタリングを実施し、天然更新に留意していく。

【モニタリング調査項目】
・森林概況調査（樹木・下層植生・病虫害等）：1ルート

### 次回以降の取扱い（案）

エゾシカによる影響が顕著に確認されたため、モニタリング間隔を10年から5年に変更し、令和12年に森林概況調査を行うこととする。

【モニタリング調査項目】
＜必須項目＞
・森林概況調査（樹木・下層植生）：1ルート
＜選択項目＞
・森林概況調査（病虫害等）等：1ルート※
※樹木・下層植生の森林概況調査と同一ルート上で実施

# 令和7年度保護林モニタリング調査の結果を踏まえた次回以降の取扱い（個票）

## 屈斜路イチイ希少個体群保護林

| | | | |
|---|---|---|---|
| 面積 | 3.10ha | 保護対象 | イチイ |
| モニタリング間隔 | 5年ごとにモニタリング | | |

※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

### 令和7年度モニタリング評価・課題・提案

確認された影響[野生鳥獣]
・イチイの立ち枯れが多く、天然更新はみられなかった。
・エゾシカによる食害を受けている状況が確認された。
・本林分は遷移過程と考えられる。
・引き続き5年おきに詳細調査を実施してその回復状況をモニタリングする。

【モニタリング調査項目】
・森林詳細調査（樹木・下層植生・病虫害等）：2地点

### 次回以降の取扱い（案）

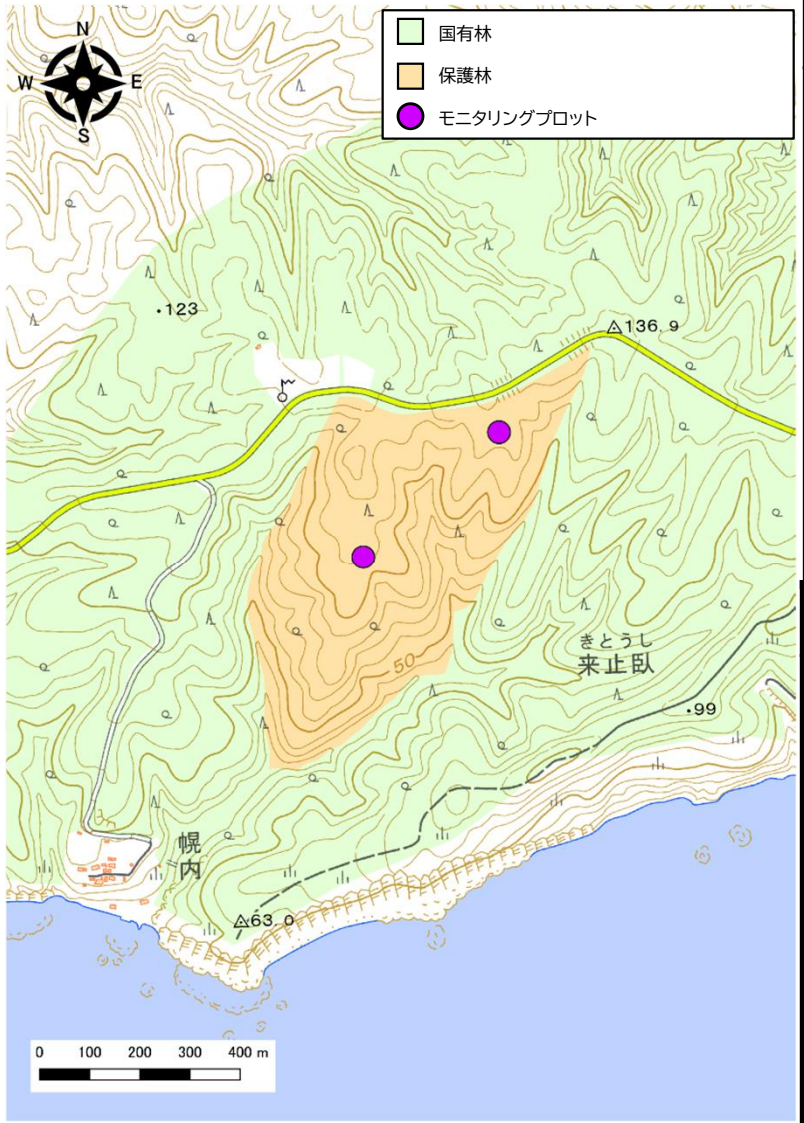
令和12年に森林詳細調査を実施する。

【モニタリング調査項目】
＜必須項目＞
・森林詳細調査（樹木・下層植生）：2地点
＜選択項目＞
・森林詳細調査（病虫害等）等：2地点※
※樹木・下層植生の森林詳細調査と同一地点で実施

# 令和7年度保護林モニタリング調査の結果を踏まえた次回以降の取扱い（個票）

## 釧路アオダモ等遺伝資源希少個体群保護林

| | | | |
|---|---|---|---|
| 面積 | 29.53 ha | 保護対象 | アオダモ、イチイ |
| モニタリング間隔 | 5年ごとにモニタリング | | |




※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

### 令和7年度モニタリング評価・課題・提案

確認された影響[野生鳥獣]
・エゾシカによる剥皮が確認された。
・林床が不嗜好植物のシラネワラビに変化していた。
・天然更新の確認はごくわずかであった。
・今後も5年おきに詳細調査を実施し、経過を観察することが望ましい。

【モニタリング調査項目】
・森林詳細調査（樹木・下層植生・病虫害等）：2地点

### 次回以降の取扱い（案）

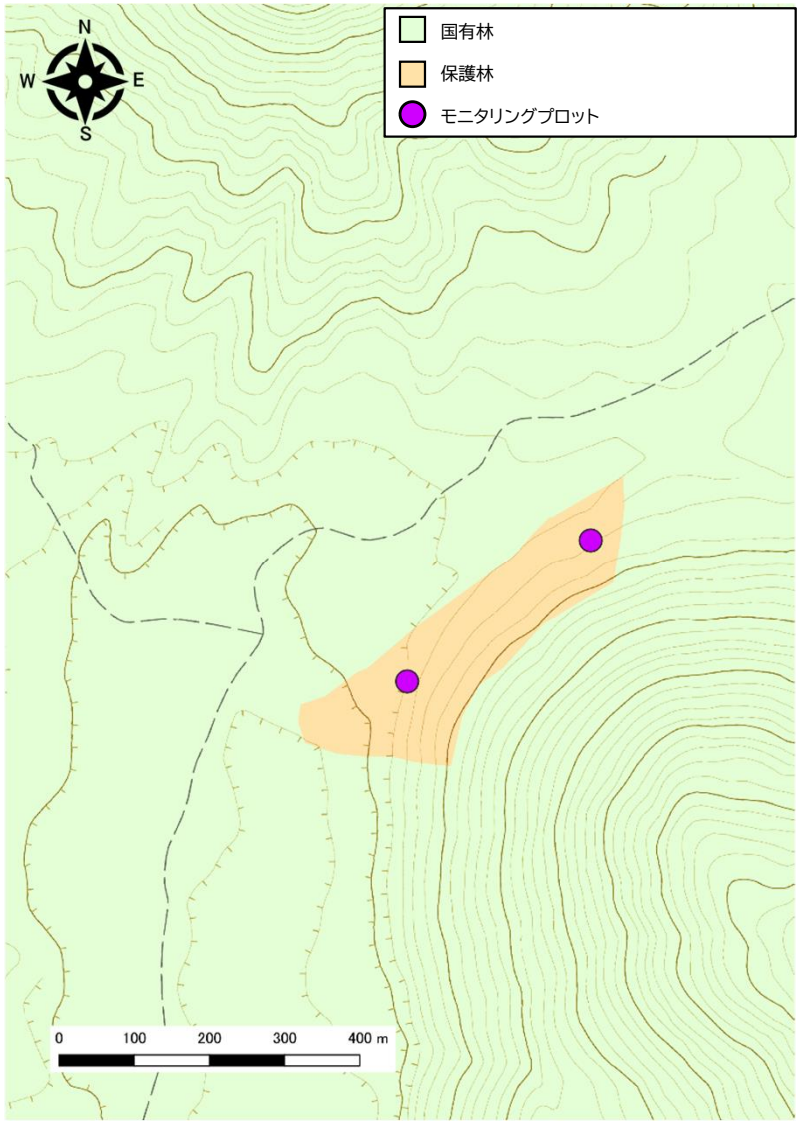
令和12年に森林詳細調査を実施する。

【モニタリング調査項目】
＜必須項目＞
・森林詳細調査（樹木・下層植生）：2地点
＜選択項目＞
・森林詳細調査（病虫害等）等：2地点※
※樹木・下層植生の森林詳細調査と同一地点で実施

# 令和7年度保護林モニタリング調査の結果を踏まえた次回以降の取扱い（個票）

## 川湯イチイ遺伝資源希少個体群保護林

| | | | |
|---|---|---|---|
| 面積 | 6.00 ha | 保護対象 | イチイ |
| モニタリング間隔 | 5年ごとにモニタリング | | |




※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

### 令和7年度モニタリング評価・課題・提案

確認された影響[野生鳥獣]
・イチイの立木は比較的健全だった。
・エゾシカによる食害が確認された。
・イチイの天然更新はみられず、その他樹種も少なかった。
・今後も5年おきに詳細調査を実施し、林分の状況を把握する。

【モニタリング調査項目】
・森林詳細調査（樹木・下層植生・病虫害等）：2地点

### 次回以降の取扱い（案）

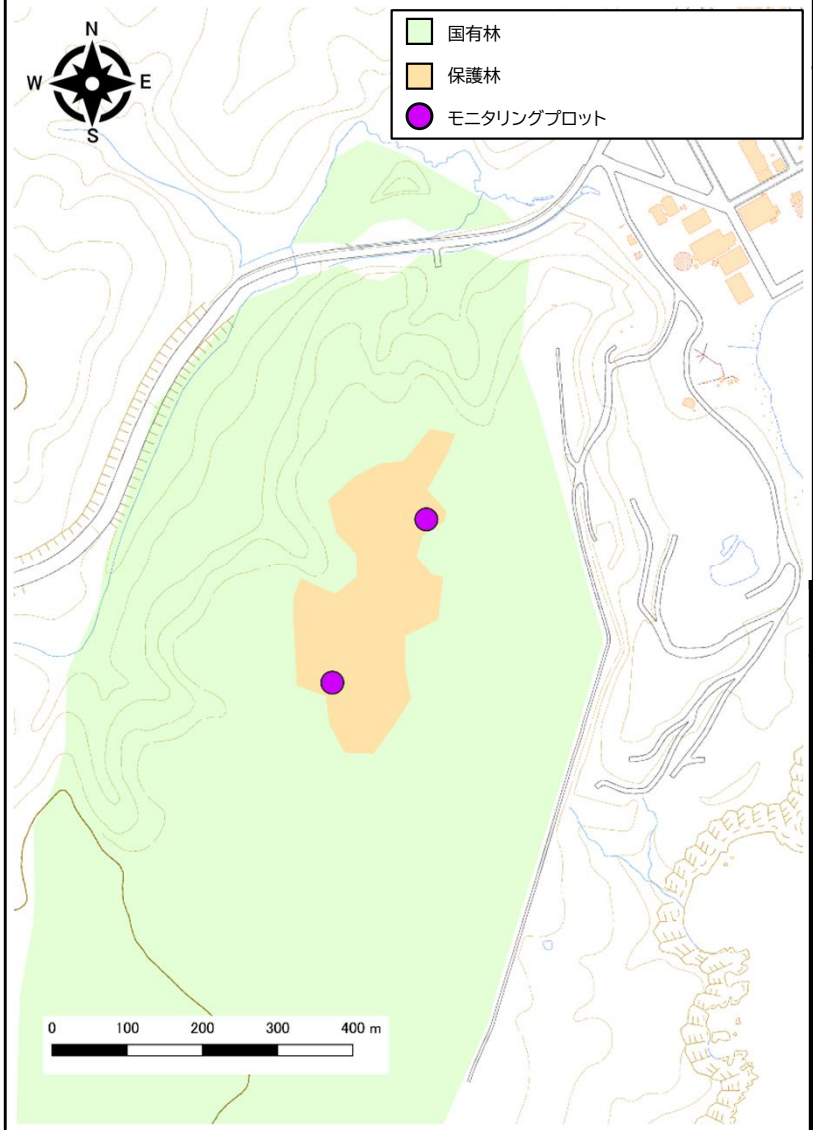
令和12年に森林詳細調査を実施する。

【モニタリング調査項目】
＜必須項目＞
・森林詳細調査（樹木・下層植生・病虫害）：2地点
＜選択項目＞
・森林詳細調査（病虫害等）等：2地点※
※樹木・下層植生の森林詳細調査と同一地点で実施

# 令和7年度保護林モニタリング調査の結果を踏まえた次回以降の取扱い（個票）

## 落石イチイ希少個体群保護林

| 面積 | 5.01 ha | 保護対象 | イチイ |
|---|---|---|---|
| モニタリング間隔 | 5年ごとにモニタリング | | |




※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

### 令和7年度モニタリング評価・課題・提案

確認された影響[野生鳥獣、自然攪乱]
・イチイは亜高木層を形成しており、純林もみられる。
・大径木の生育は健全であった。
・林床にはエゾシカの痕跡が多い。
・イチイの低木等の確認はごくわずかであった。
・小規模な風倒が確認された。
・今後の天然更新の状況にはやや留意が必要である。

【モニタリング調査項目】
森林詳細調査（樹木・下層植生・病虫害等）：2地点

### 次回以降の取扱い（案）

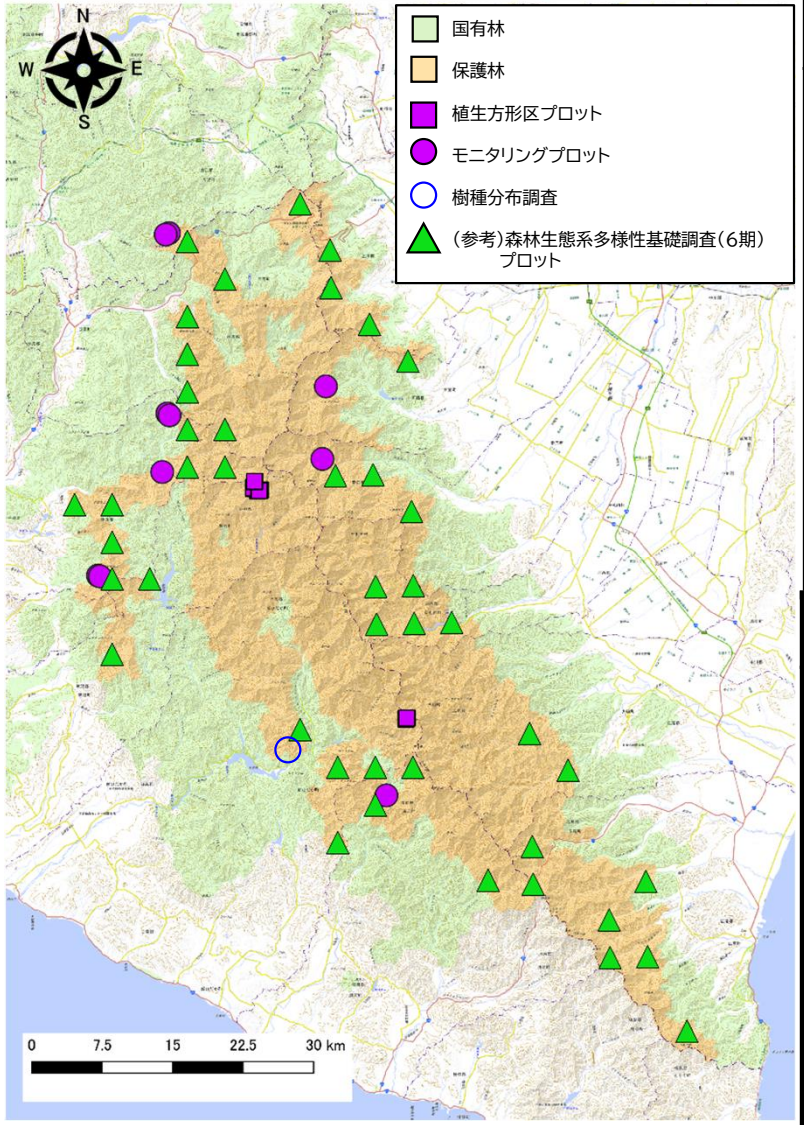
令和12年に森林詳細調査を実施する。

【モニタリング調査項目】
＜必須項目＞
・森林詳細調査（樹木・下層植生・病虫害）：2地点
＜選択項目＞
・森林詳細調査（病虫害等）等：2地点※
※樹木・下層植生の森林詳細調査と同一地点で実施

# 令和7年度保護林モニタリング調査の結果を踏まえた次回以降の取扱い（個票）

## 日高山脈森林生態系保護地域

| | | | |
|---|---|---|---|
| 面積 | 167,962.31 ha | 保護対象 | 北海道の中央部を代表する日高山脈に見られる原生的な天然林 |
| モニタリング間隔 | 10年ごとにモニタリング | | |




※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

### 令和7年度モニタリング評価・課題・提案

高山帯：確認された影響［特になし］
・高山帯では大きな変化はみられず、良好な状態が確認された。
樹林帯：確認された影響［野生鳥獣］
・樹林帯では生立木はおおむね健全だが、一部の調査地の下層植生にシカの影響が多く確認された。
・巡視等によりエゾシカの影響や気象害等を注視しつつ、引き続きモニタリングにより経過を観察していく。

【モニタリング調査項目】
・資料調査（森林生態系多様性基礎調査）：52地点（うち29地点は不到達）
・森林詳細調査（植生方形区調査）：11地点（うち5地点は不到達）
・森林詳細調査（樹木・下層植生・病虫害等）：2地点
・森林概況調査（樹木・下層植生・病虫害等）：1ルート

※令和2年度に実施した他の調査箇所において確認された影響は特になし

### 次回以降の取扱い（案）

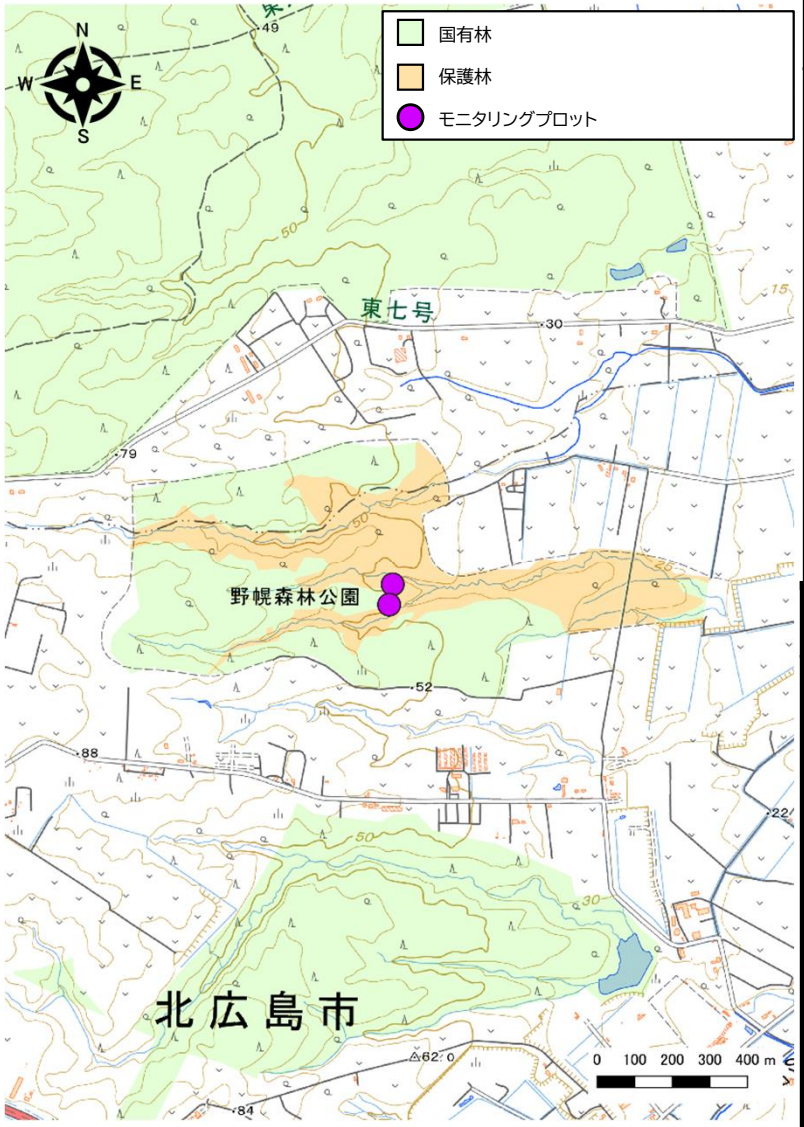
令和12年に高山帯は森林詳細調査（植生方形区）、森林帯は森林概況調査及び一部地点でのドローンによる樹種分布調査を行うこととする。
なお、森林生態系多様性基礎調査については、実施される箇所を資料調査として利用することとする。

【モニタリング調査項目】
＜必須項目＞
・資料調査（森林タイプ・利活用）
・資料調査（森林生態系多様性基礎調査）
・森林詳細調査（植生方形区）：11地点
・森林概況調査（樹木・下層植生・病虫害等）：10ルート
・聞き取り調査（管理体制）
＜選択項目＞
・樹種分布調査：1地点

# 令和7年度保護林モニタリング調査の結果を踏まえた次回以降の取扱い（個票）

## 野幌カツラ等希少個体群保護林

| 面積 | 25.65 ha | 保護対象 | カツラ、キタコブシ |
|---|---|---|---|
| モニタリング間隔 | 10年ごとにモニタリング | | |




※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

### 職員による簡素な現況調査結果

・保護対象の状況に大きな変化なし。
・シカの痕跡（足跡、糞）が確認された。

### 次回以降の取扱い（案）

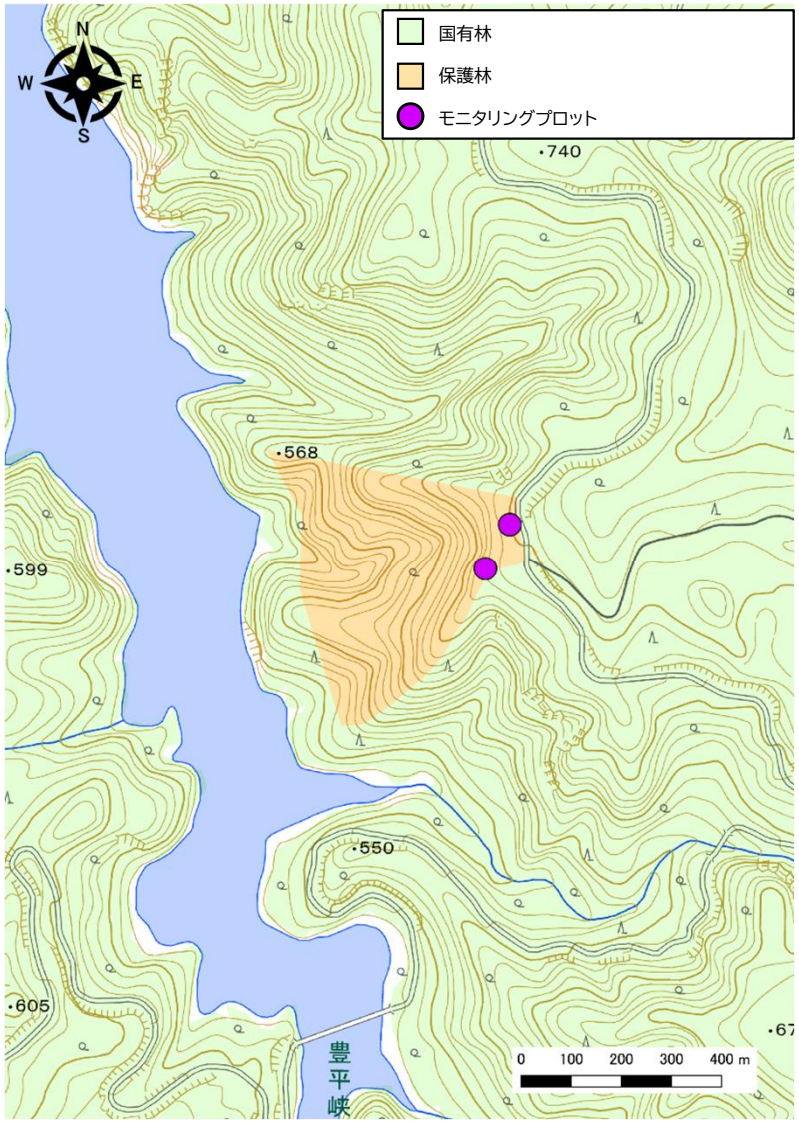
令和12年に森林概況調査を実施する。

【モニタリング調査項目】
＜必須項目＞
・森林概況調査（樹木・下層植生）：1ルート
＜選択項目＞
・森林概況調査（病虫害）等：1ルート※
※樹木・下層植生の森林概況調査と同一ルート上で実施

# 令和7年度保護林モニタリング調査の結果を踏まえた次回以降の取扱い（個票）

## 定山渓トドマツ遺伝資源希少個体群保護林

| 面積 | 15.69 ha | 保護対象 | トドマツ |
|---|---|---|---|
| モニタリング間隔 | 10年ごとにモニタリング | | |




※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

### 職員による簡素な現況調査結果

・保護対象の状況に大きな変化なし。
・シカの痕跡（糞）が確認され、30104-円1周辺のササが枯死していた。

### 次回以降の取扱い（案）

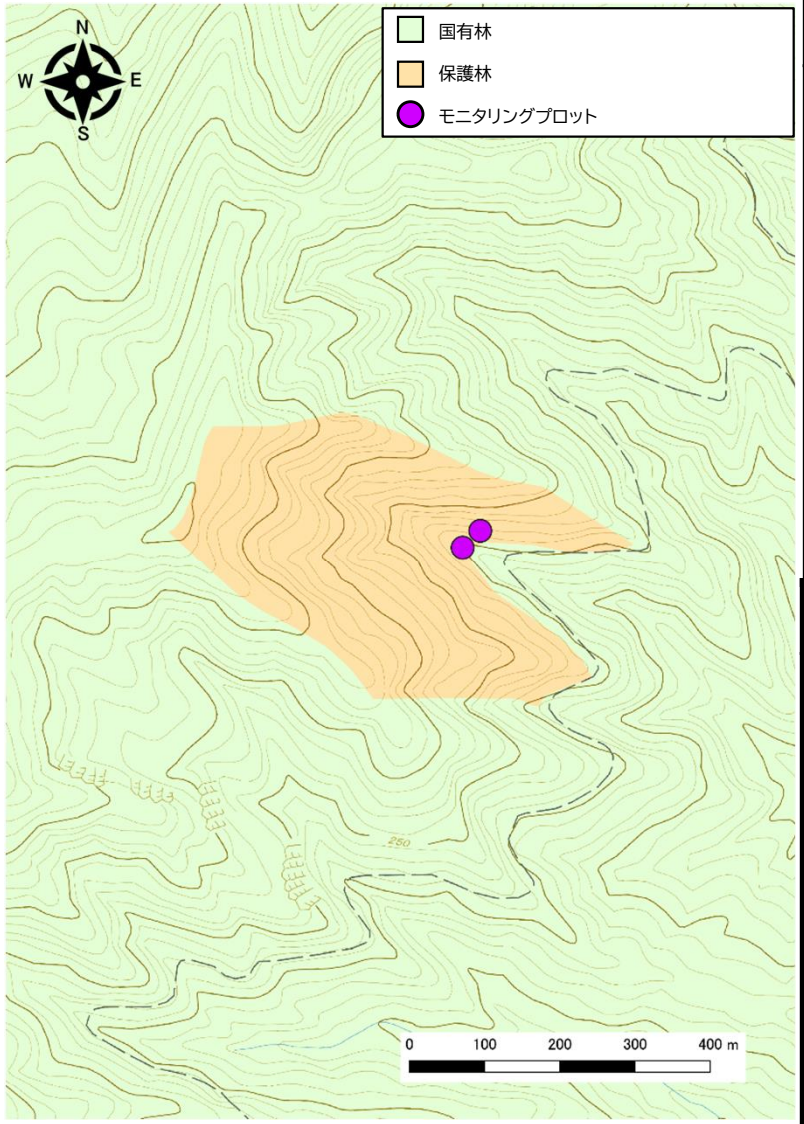
令和12年に森林概況調査を実施する。

【モニタリング調査項目】
＜必須項目＞
・森林概況調査（樹木・下層植生）：1ルート
＜選択項目＞
・森林概況調査（病虫害）等：1ルート※
※樹木・下層植生の森林概況調査と同一ルート上で実施

# 令和7年度保護林モニタリング調査の結果を踏まえた次回以降の取扱い（個票）

## 銀山トチノキ遺伝資源希少個体群保護林

| | | | |
|---|---|---|---|
| 面積 | 13.40 ha | 保護対象 | トチノキ |
| モニタリング間隔 | 10年ごとにモニタリング | | |




※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

### 職員による簡素な現況調査結果

・保護対象の状況に大きな変化なし。
・実生は確認されなかった。

### 次回以降の取扱い（案）

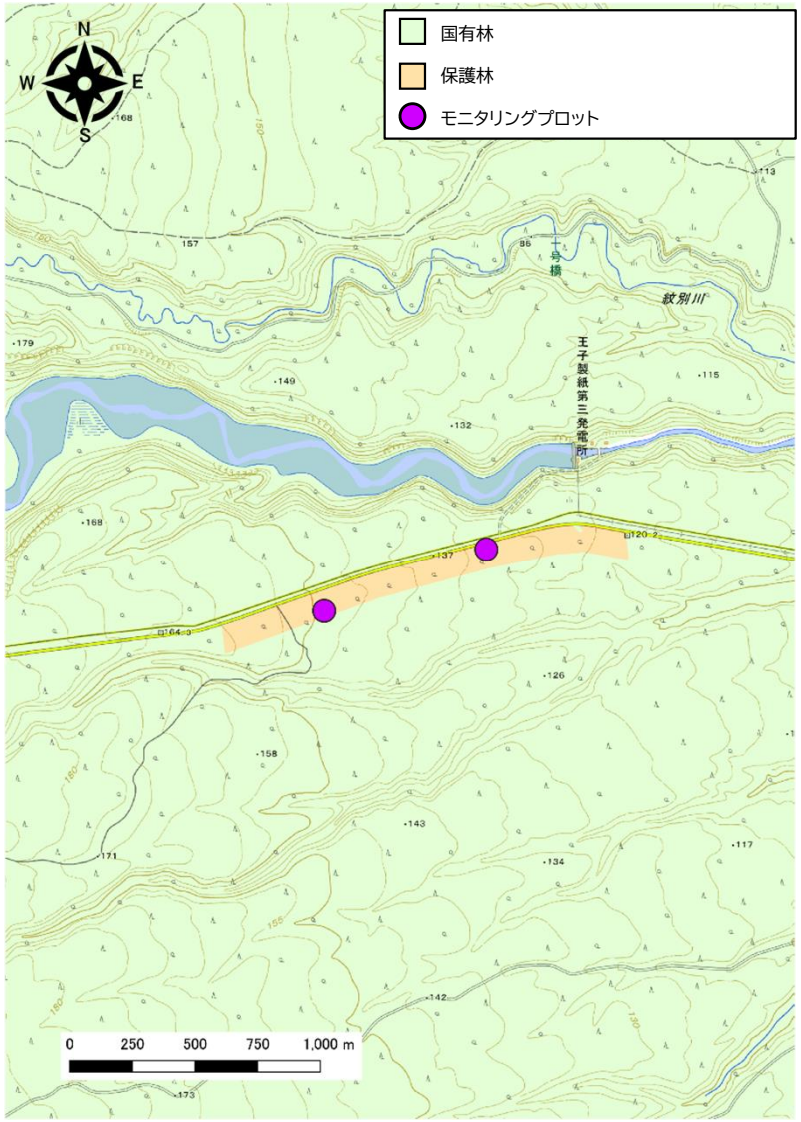
令和12年に森林概況調査を実施する。

【モニタリング調査項目】
＜必須項目＞
・森林概況調査（樹木・下層植生）：1ルート
＜選択項目＞
・森林概況調査（病虫害）等：1ルート※
※樹木・下層植生の森林概況調査と同一ルート上で実施

# 令和7年度保護林モニタリング調査の結果を踏まえた次回以降の取扱い（個票）

## 千歳ミズナラ希少個体群保護林

| | | | |
|---|---|---|---|
| 面積 | 15.63 ha | 保護対象 | ミズナラ |
| モニタリング間隔 | 10年ごとにモニタリング | | |




※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

### 職員による簡素な現況調査結果

- 保護対象の状況に大きな変化なし。
- シカの痕跡（糞）が確認された。
- 天然更新は少ない。

### 次回以降の取扱い（案）

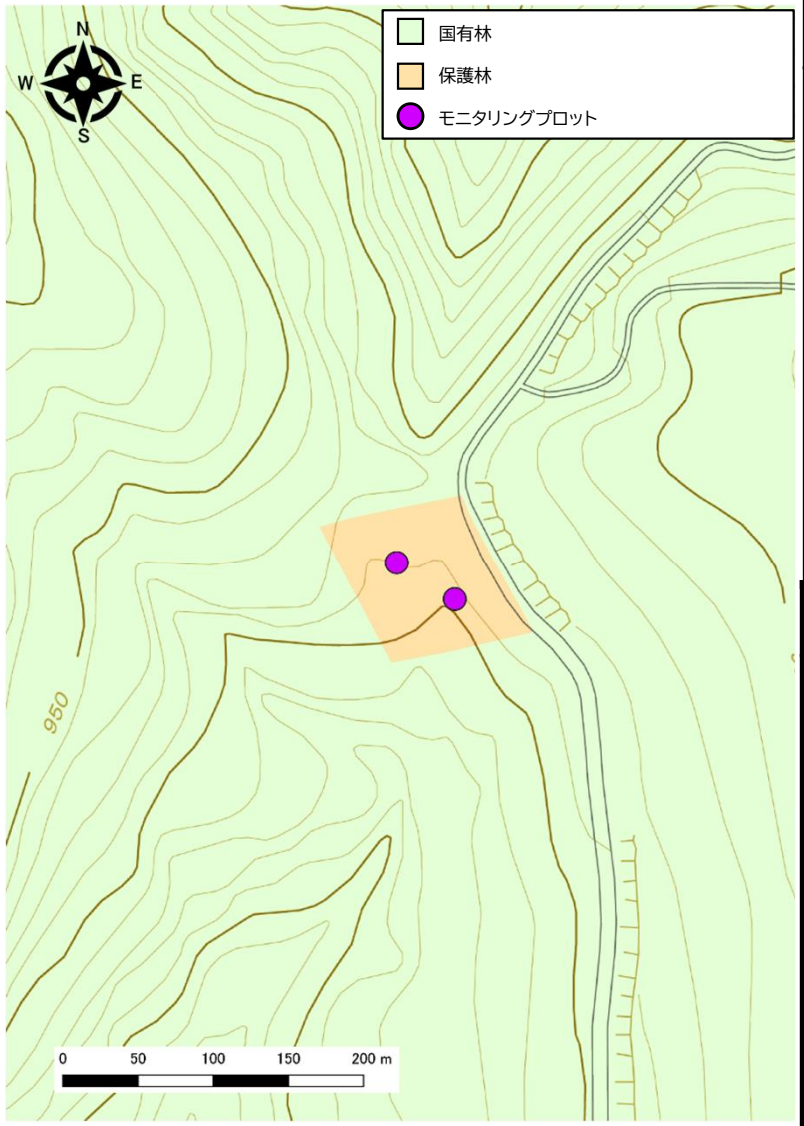
令和12年に森林概況調査を実施する。

【モニタリング調査項目】
＜必須項目＞
・森林概況調査（樹木・下層植生）：1ルート
＜選択項目＞
・森林概況調査（病虫害）等：1ルート※
※樹木・下層植生の森林概況調査と同一ルート上で実施

# 令和7年度保護林モニタリング調査の結果を踏まえた次回以降の取扱い（個票）

## 日高エゾマツ希少個体群保護林

| | | | |
|---|---|---|---|
| 面積 | 1.00 ha | 保護対象 | エゾマツ |
| モニタリング間隔 | 10年ごとにモニタリング | | |




※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

### 職員による簡素な現況調査結果

・保護対象の状況に大きな変化なし。
・クマゲラの採餌木が確認された。

### 次回以降の取扱い（案）

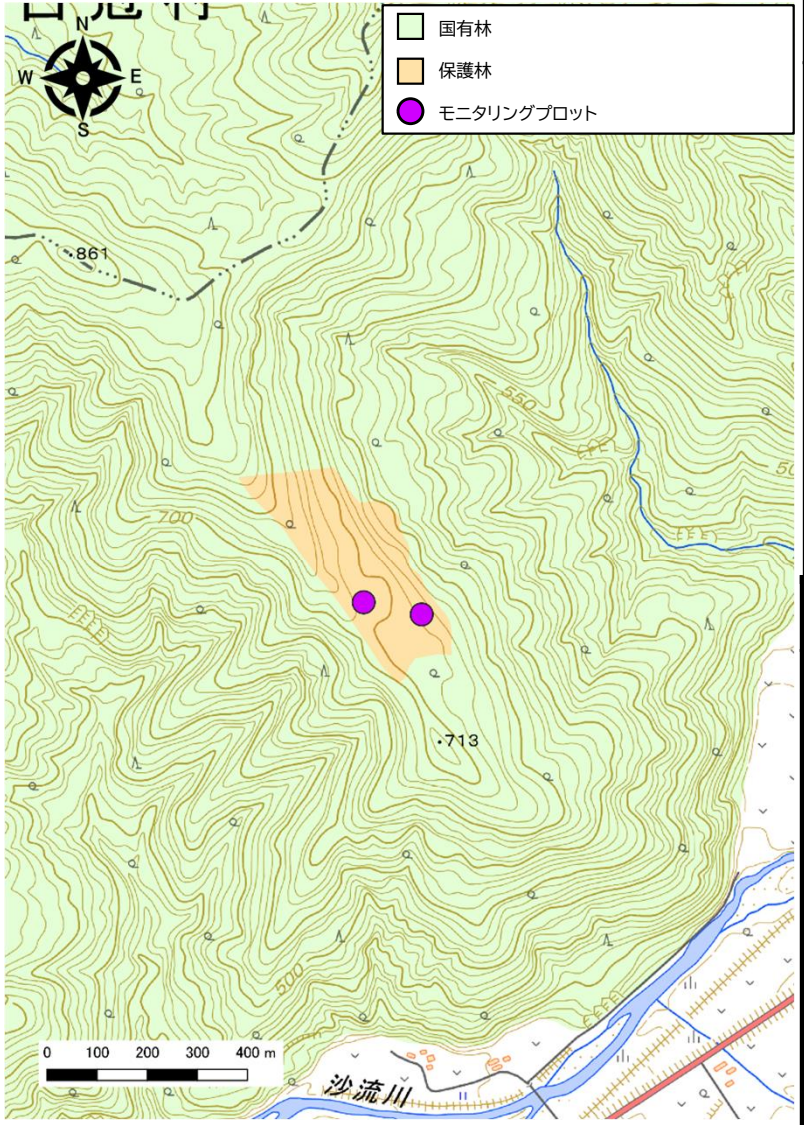
令和12年に森林概況調査を実施する。

【モニタリング調査項目】
＜必須項目＞
・森林概況調査（樹木・下層植生）：1ルート
＜選択項目＞
・森林概況調査（病虫害）等：1ルート※
※樹木・下層植生の森林概況調査と同一ルート上で実施

# 令和7年度保護林モニタリング調査の結果を踏まえた次回以降の取扱い（個票）

## 千栄シウリザクラ遺伝資源希少個体群保護林

| | | | |
|---|---|---|---|
| 面積 | 8.13 ha | 保護対象 | シウリザクラ |
| モニタリング間隔 | 10年ごとにモニタリング | | |




※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

### 職員による簡素な現況調査結果

・保護対象の状況に大きな変化なし。

### 次回以降の取扱い（案）

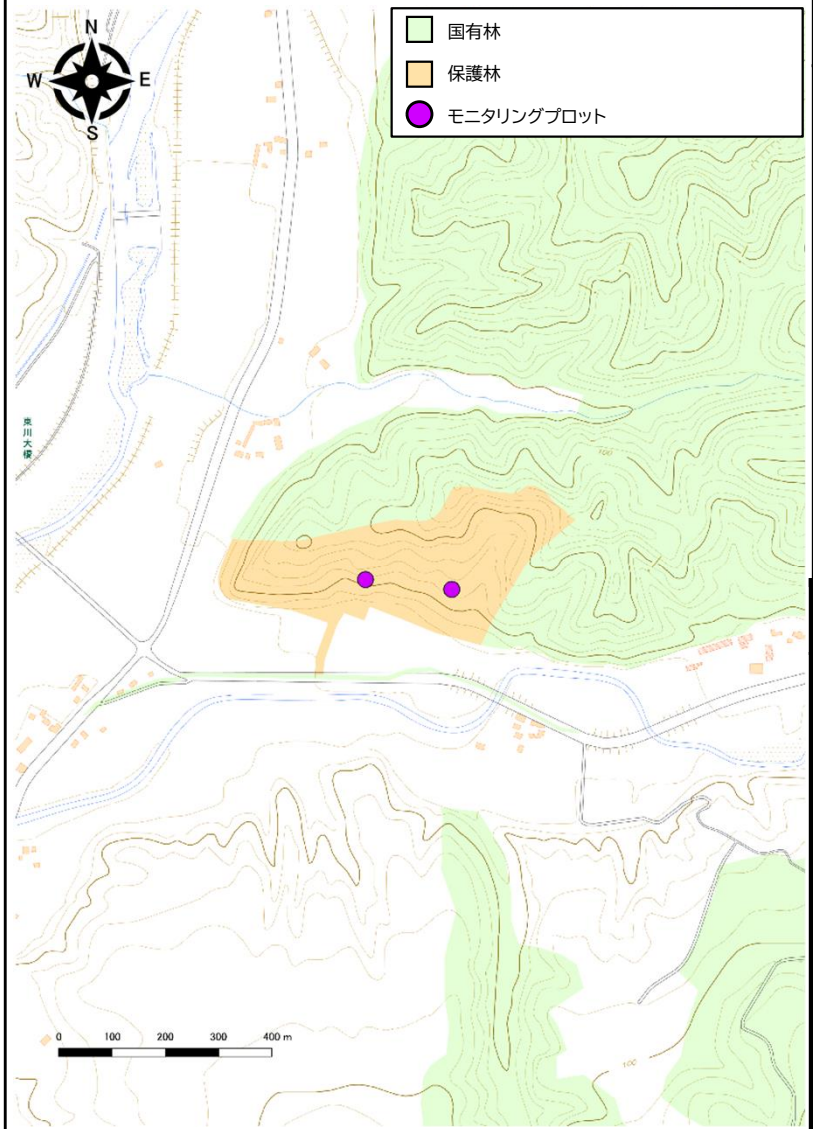
令和12年に森林概況調査を実施する。

【モニタリング調査項目】
＜必須項目＞
・森林概況調査（樹木・下層植生）：1ルート
＜選択項目＞
・森林概況調査（病虫害）等：1ルート※
※樹木・下層植生の森林概況調査と同一ルート上で実施

# 令和7年度保護林モニタリング調査の結果を踏まえた次回以降の取扱い（個票）

## 東川コナラ遺伝資源希少個体群保護林

| | | | |
|---|---|---|---|
| 面積 | 10.00 ha | 保護対象 | コナラ |
| モニタリング間隔 | 10年ごとにモニタリング | | |




※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

### 職員による簡素な現況調査結果

・保護対象の状況に大きな変化なし。
・シカの痕跡（糞）が確認された。

### 次回以降の取扱い（案）

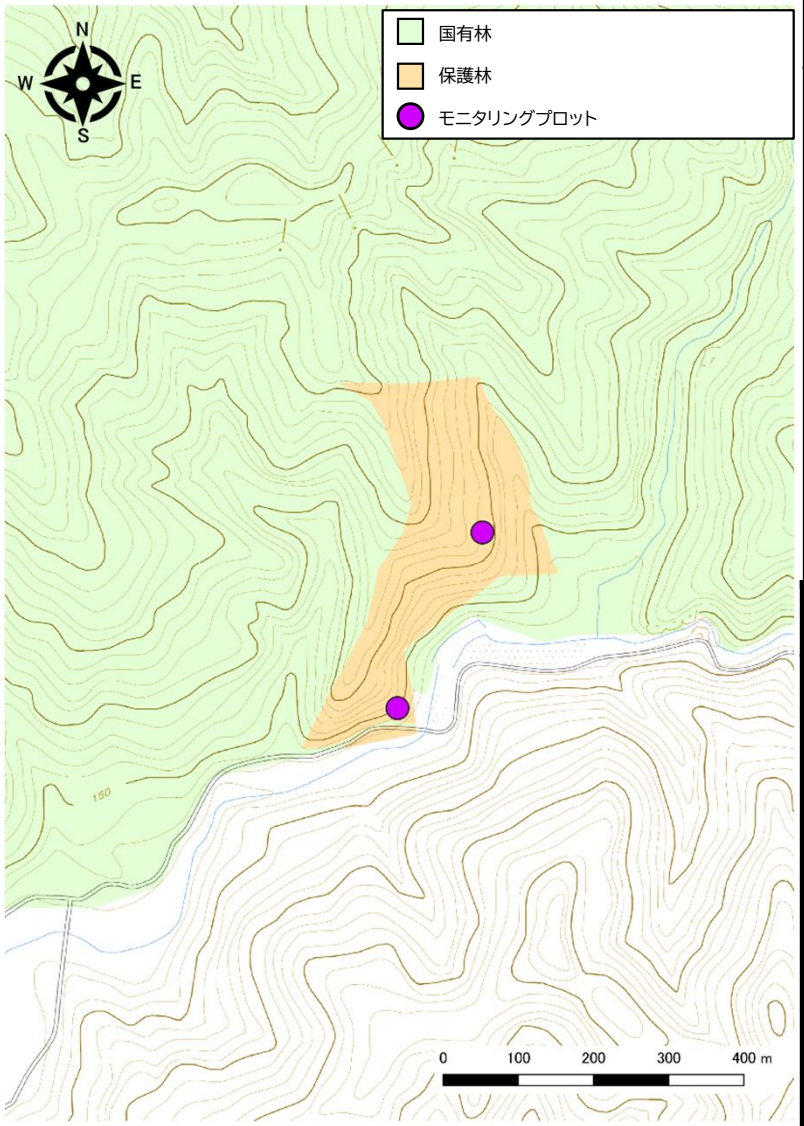
令和12年に森林概況調査を実施する。

【モニタリング調査項目】
＜必須項目＞
・森林概況調査（樹木・下層植生）：1ルート
＜選択項目＞
・森林概況調査（病虫害）等：1ルート※
※樹木・下層植生の森林概況調査と同一ルート上で実施

# 令和7年度保護林モニタリング調査の結果を踏まえた次回以降の取扱い（個票）

## 三石アオダモ遺伝資源希少個体群保護林

| | | | |
|---|---|---|---|
| 面積 | 6.67 ha | 保護対象 | アオダモ |
| モニタリング間隔 | 10年ごとにモニタリング | | |




※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

### 職員による簡素な現況調査結果

- 保護対象の状況に大きな変化なし。
- シカの痕跡（糞、足跡）が確認された。
- ササがなくなり、ナラ等の天然更新が旺盛であった。

### 次回以降の取扱い（案）

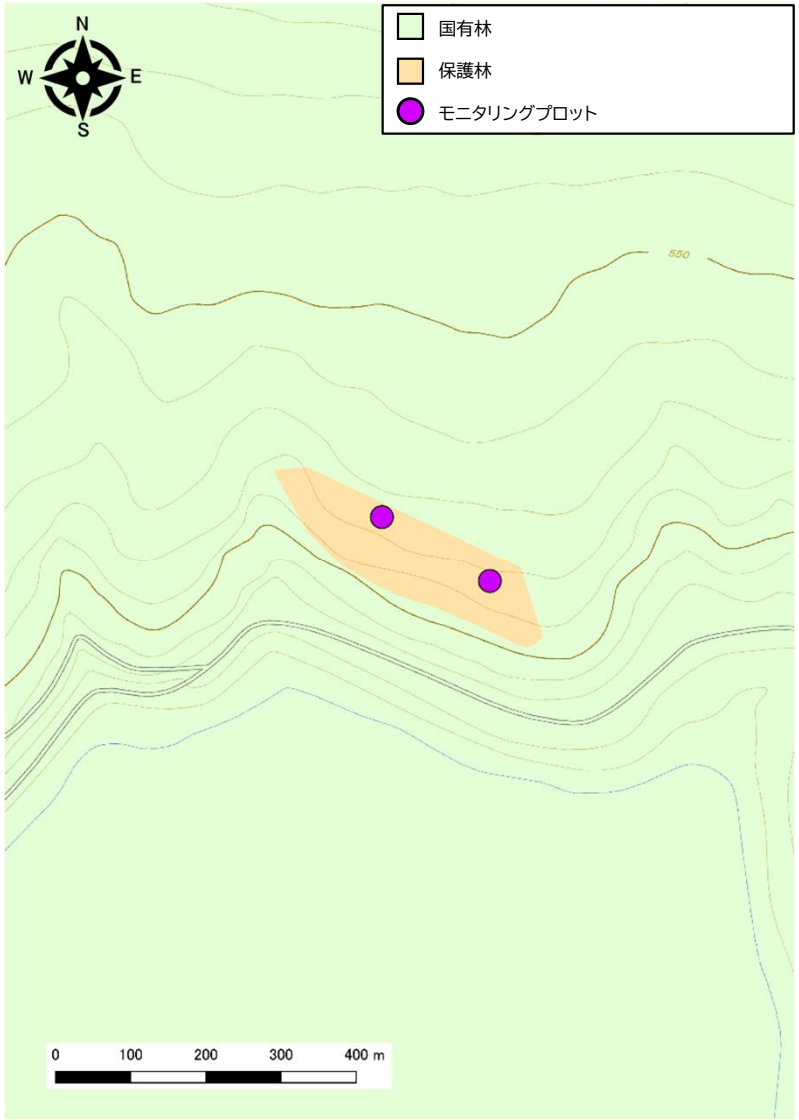
令和12年に森林概況調査を実施する。

【モニタリング調査項目】
＜必須項目＞
・森林概況調査（樹木・下層植生）：1ルート
＜選択項目＞
・森林概況調査（病虫害）等：1ルート※
※樹木・下層植生の森林概況調査と同一ルート上で実施

# 令和7年度保護林モニタリング調査の結果を踏まえた次回以降の取扱い（個票）

## 阿寒湖畔シロエゾマツ遺伝資源希少個体群保護林

| | | | |
|---|---|---|---|
| 面積 | 3.31 ha | 保護対象 | エゾマツ（シロエゾマツ） |
| モニタリング間隔 | 10年ごとにモニタリング | | |




※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

### 職員による簡素な現況調査結果

・保護対象の状況に大きな変化なし。
・シカの痕跡（糞）、クマゲラの採餌木が確認された。

### 次回以降の取扱い（案）

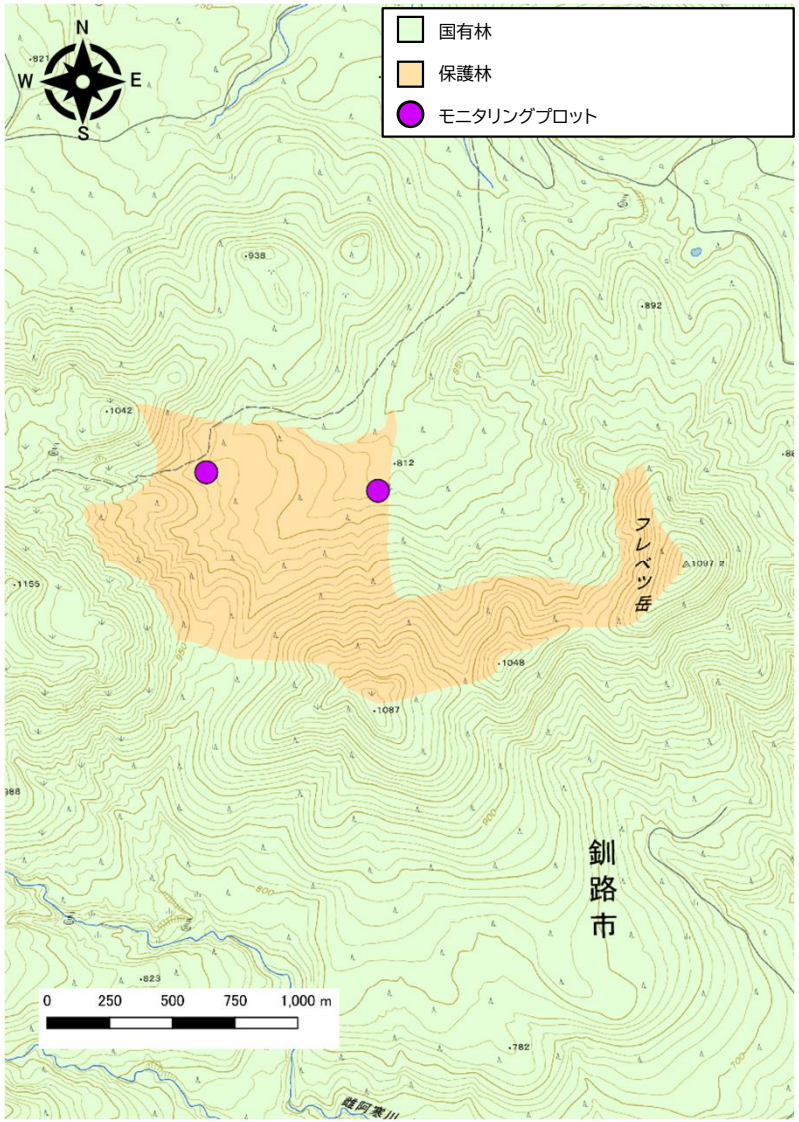
令和12年に森林概況調査を実施する。

【モニタリング調査項目】
＜必須項目＞
・森林概況調査（樹木・下層植生）：1ルート
＜選択項目＞
・森林概況調査（病虫害）等：1ルート※
※樹木・下層植生の森林概況調査と同一ルート上で実施

# 令和7年度保護林モニタリング調査の結果を踏まえた次回以降の取扱い（個票）

## 雌阿寒トドマツ希少個体群保護林

| 面積 | 134.00 ha | 保護対象 | トドマツ |
|---|---|---|---|
| モニタリング間隔 | 10年ごとにモニタリング | | |




※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

### 職員による簡素な現況調査結果

・保護対象の状況に大きな変化なし。

### 次回以降の取扱い（案）

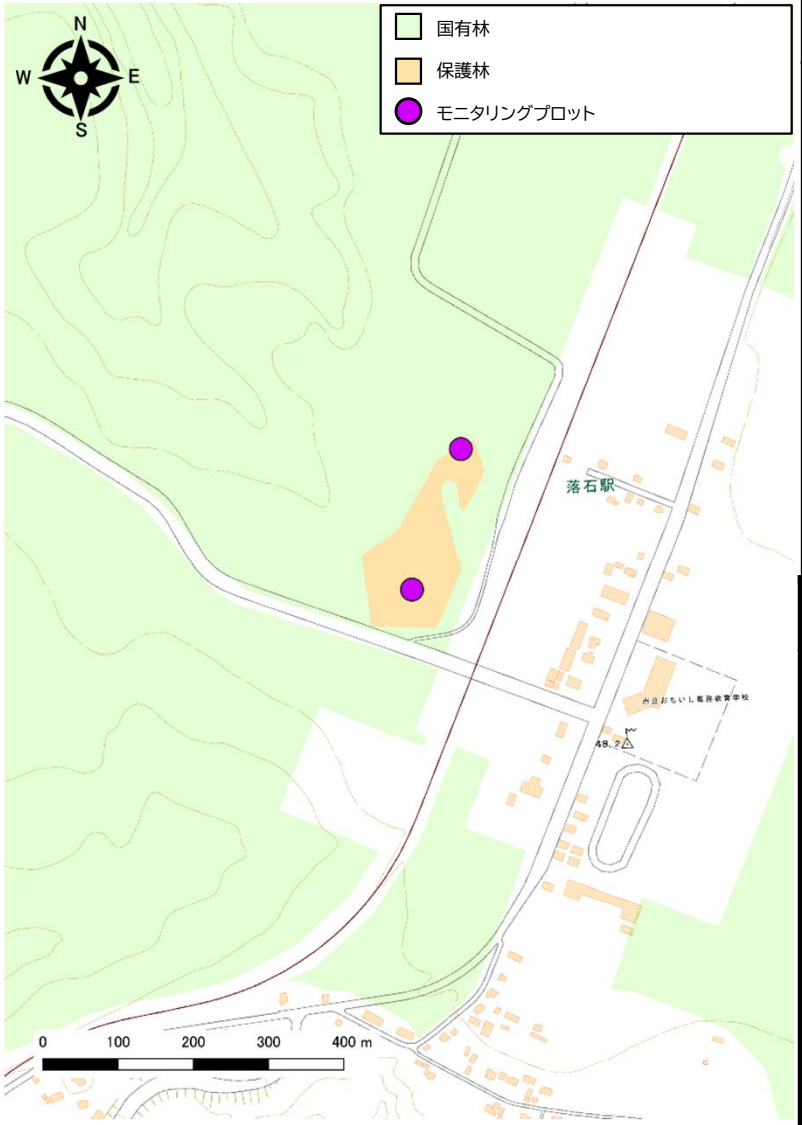
令和12年に森林概況調査を実施する。

【モニタリング調査項目】
＜必須項目＞
・森林概況調査（樹木・下層植生）：1ルート
＜選択項目＞
・森林概況調査（病虫害）等：1ルート※
※樹木・下層植生の森林概況調査と同一ルート上で実施

# 令和7年度保護林モニタリング調査の結果を踏まえた次回以降の取扱い（個票）

## 落石アカエゾマツ遺伝資源希少個体群保護林

| | | | |
|---|---|---|---|
| 面積 | 1.78 ha | 保護対象 | アカエゾマツ |
| モニタリング間隔 | 10年ごとにモニタリング | | |




※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

### 職員による簡素な現況調査結果

・保護対象の状況に大きな変化なし。
・アカエゾマツの天然更新が確認された。

### 次回以降の取扱い（案）

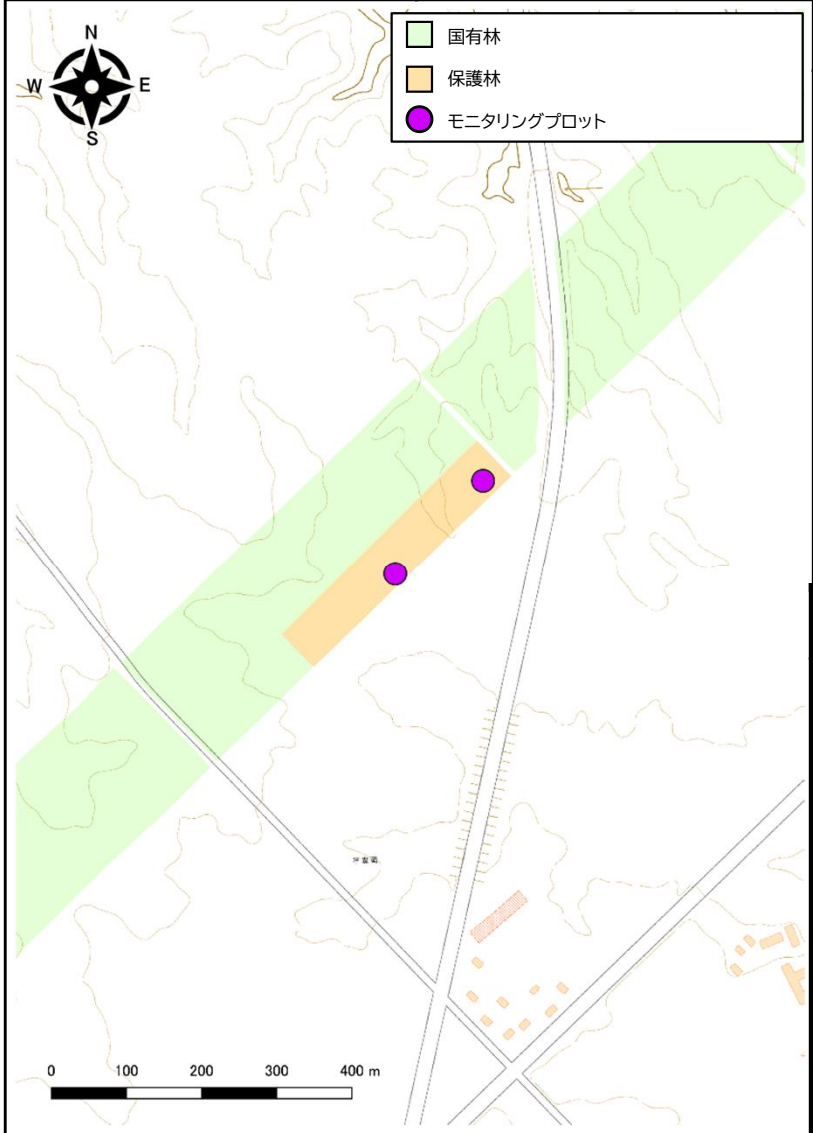
令和12年に森林概況調査を実施する。

【モニタリング調査項目】
＜必須項目＞
・森林概況調査（樹木・下層植生）：1ルート
＜選択項目＞
・森林概況調査（病虫害）等：1ルート※
※樹木・下層植生の森林概況調査と同一ルート上で実施

# 令和7年度保護林モニタリング調査の結果を踏まえた次回以降の取扱い（個票）

## 別海グイマツ遺伝資源希少個体群保護林

| | | | |
|---|---|---|---|
| 面積 | 2.32 ha | 保護対象 | グイマツ |
| モニタリング間隔 | 10年ごとにモニタリング | | |




※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

### 職員による簡素な現況調査結果

・保護対象の状況に大きな変化なし。
・天然更新は確認されなかった。

### 次回以降の取扱い（案）

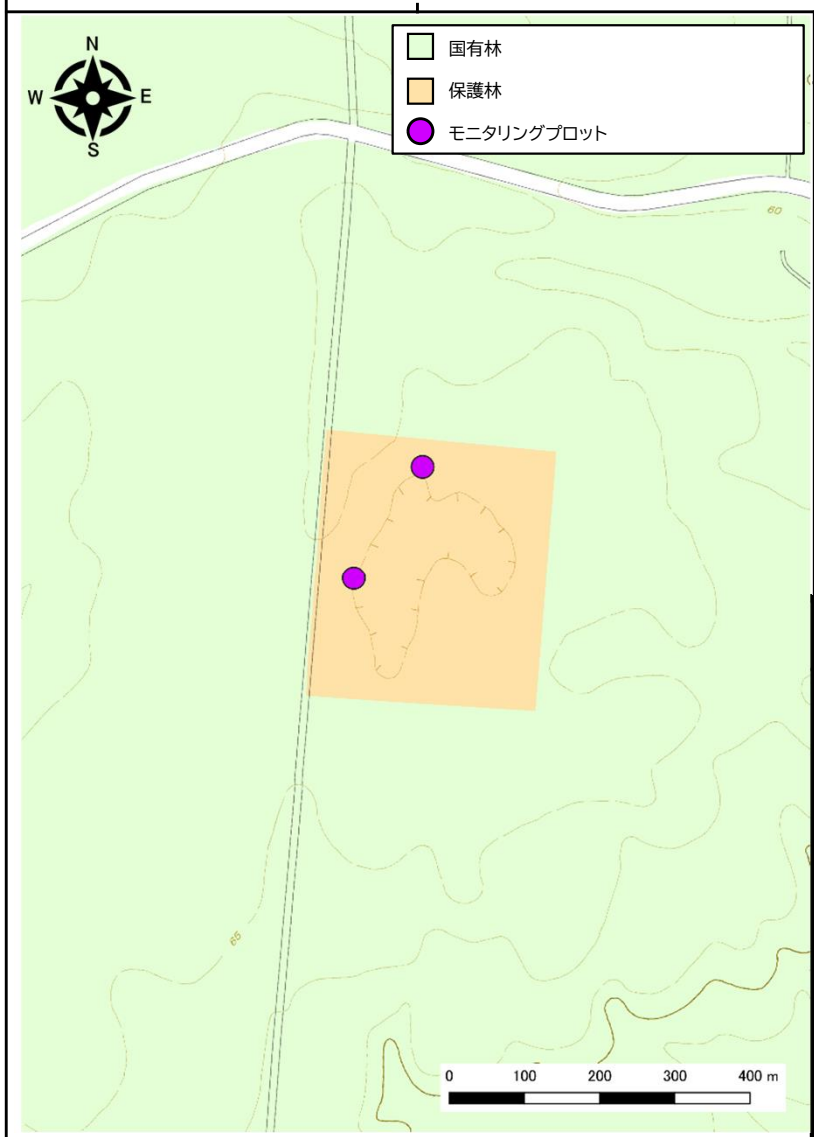
令和12年に森林概況調査を実施する。

【モニタリング調査項目】
＜必須項目＞
・森林概況調査（樹木・下層植生）：1ルート
＜選択項目＞
・森林概況調査（病虫害）等：1ルート※
※樹木・下層植生の森林概況調査と同一ルート上で実施

# 令和7年度保護林モニタリング調査の結果を踏まえた次回以降の取扱い（個票）

## 落石アカエゾマツ希少個体群保護林

| | | | |
|---|---|---|---|
| 面積 | 10.50 ha | 保護対象 | アカエゾマツ |
| モニタリング間隔 | 10年ごとにモニタリング | | |




※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

### 職員による簡素な現況調査結果

- 保護対象の状況に大きな変化なし。
- シカの痕跡（足跡）が確認された。
- アカエゾマツの天然更新が旺盛であった。

### 次回以降の取扱い（案）

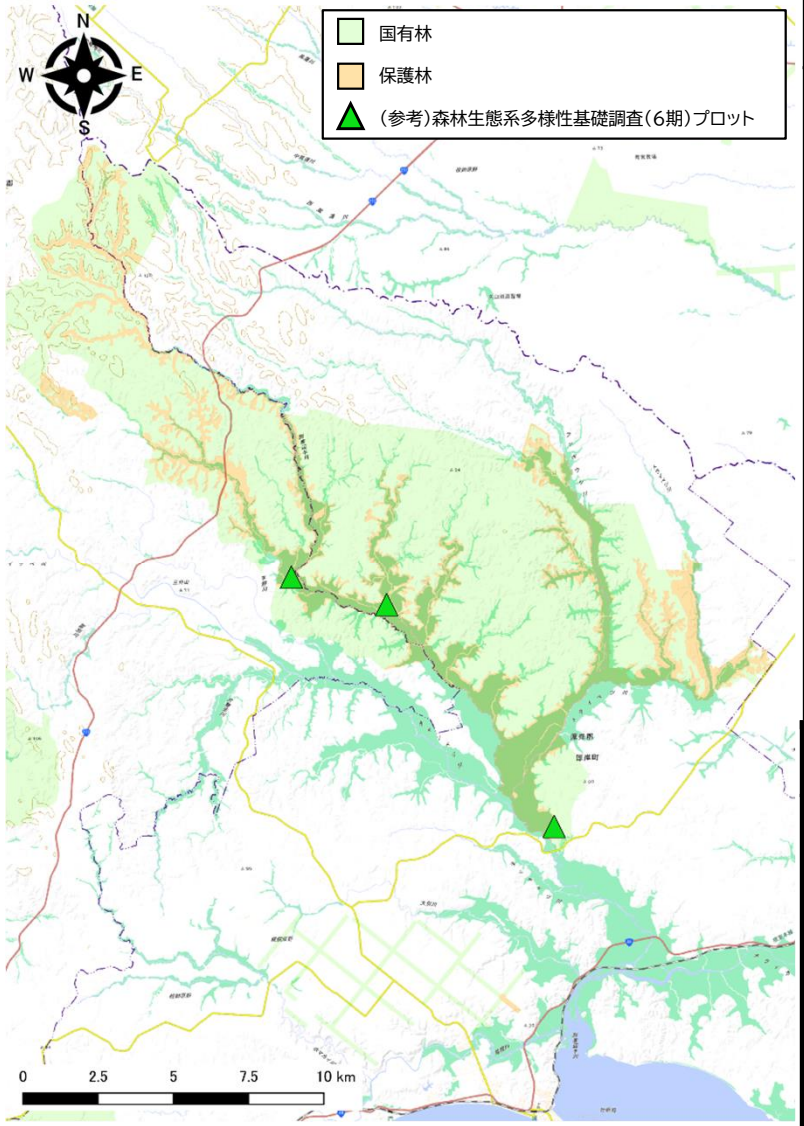
令和12年に森林概況調査を実施する。

【モニタリング調査項目】
＜必須項目＞
・森林概況調査（樹木・下層植生）：1ルート
＜選択項目＞
・森林概況調査（病虫害）等：1ルート※
※樹木・下層植生の森林概況調査と同一ルート上で実施

# 令和7年度保護林モニタリング調査の結果を踏まえた次回以降の取扱い（個票）

## 別寒辺牛生物群集保護林

| | | | |
|---|---|---|---|
| 面積 | 2,653.60 ha | 保護対象 | 別寒辺牛川流域の生物群集を有する森林 |
| モニタリング間隔 | 10年ごとにモニタリング | | |




※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

### 令和7年度モニタリング評価・課題・提案

確認された影響[特になし]

・立木の生育状況は比較的健全であり、気象害等は確認されなかった。
・本地域はおおむね良好に保護・管理されている。
・鳥類調査の現行の調査方法は範囲・時間が限定的であるため、保護林の鳥類相を十分に把握できていない可能性がある。今後は広い視野が確保できる場所からの長時間の定点調査や夜間の録音調査等を加えて総合的に把握することが望ましい。
・引き続き、巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

希少種の情報が含まれるため非公開

【モニタリング調査項目】
・資料調査（森林生態系多様性基礎調査（樹木・下層植生））：3地点
・鳥類調査

### 次回以降の取扱い（案）

モニタリング間隔が10年に設定されている保護林であり、前回のモニタリングから5年後に当たる令和12年度は保護林内にて実施されている森林生態系多様性基礎調査を資料調査として活用する。

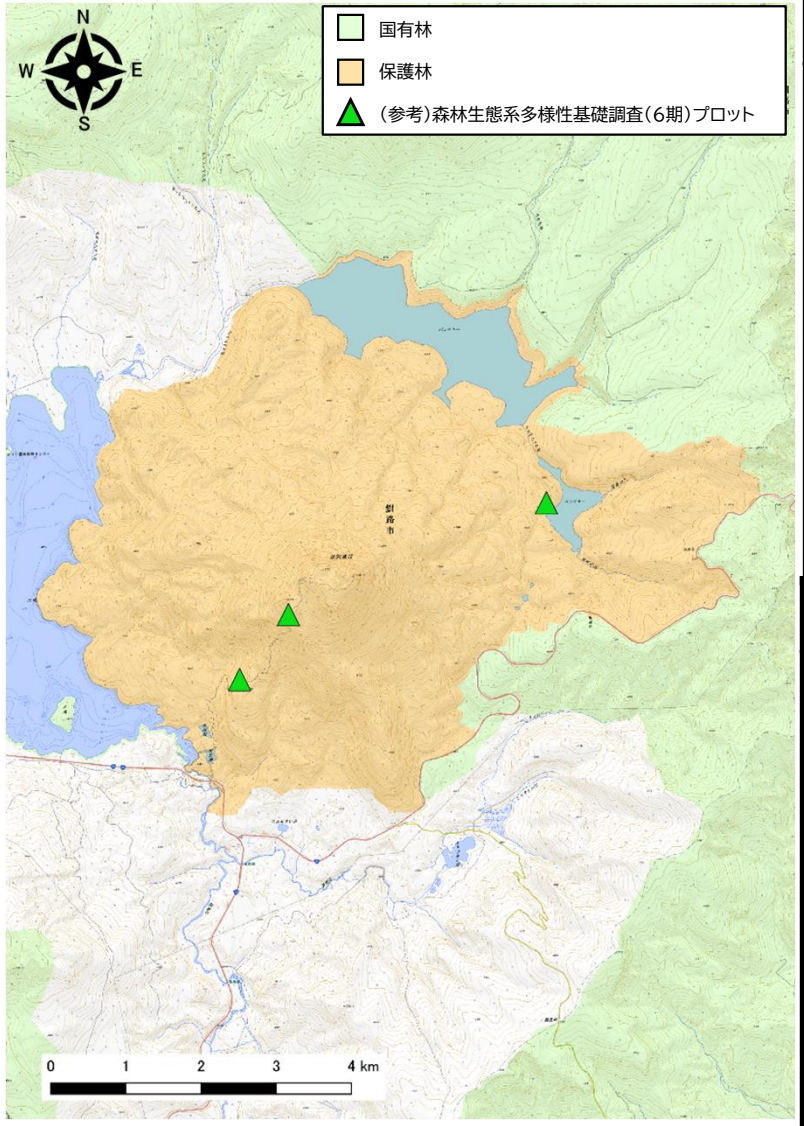
なお、森林生態系多様性基礎調査が実施されない場合は、職員による簡素な現況調査を実施することとする。

・資料調査（森林生態系多様性基礎調査）

# 令和7年度保護林モニタリング調査の結果を踏まえた次回以降の取扱い（個票）

## 雄阿寒岳生物群集保護林

| | | | |
|---|---|---|---|
| 面積 | 3,758.52 ha | 保護対象 | 雄阿寒岳周辺の生物群集を有する森林 |
| モニタリング間隔 | 10年ごとにモニタリング | | |




※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

### 令和7年度モニタリング評価・課題・提案

確認された影響【特になし】
・生立木は比較的健全な状態であった。
・一部の地点で風害や雪害が確認されたが、各地点の林分の発達段階から考慮すると植生には大きな変化はなかったと考えられる。

【モニタリング調査項目】
・資料調査（森林生態系多様性基礎調査（樹木・下層植生））：4地点

### 次回以降の取扱い（案）

モニタリング間隔が10年に設定されている保護林であり、前回のモニタリングから5年後に当たる令和12年度は保護林内にて実施されている森林生態系多様性基礎調査の結果を資料調査として活用する。

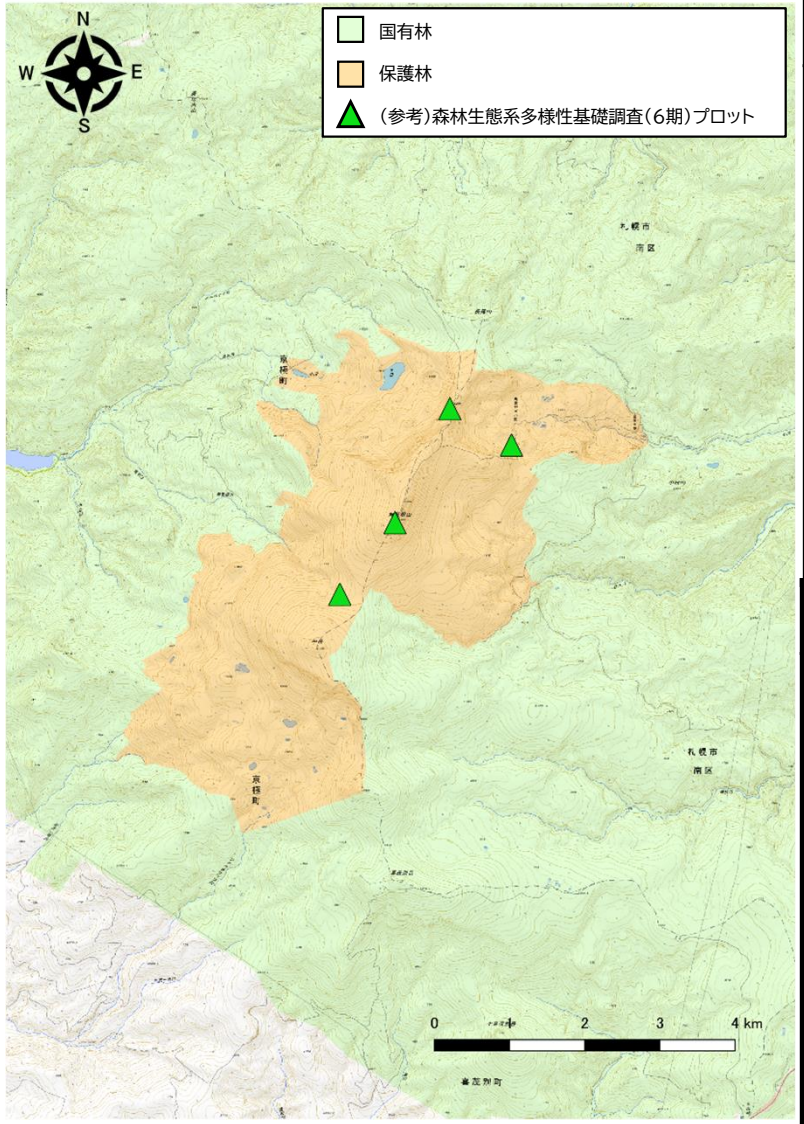
なお、森林生態系多様性基礎調査が実施されない場合は、職員による簡素な現況調査を実施することとする。

・資料調査（森林生態系多様性基礎調査）

# 令和7年度保護林モニタリング調査の結果を踏まえた次回以降の取扱い（個票）

## 無意根山周辺生物群集保護林

| | | | |
|---|---|---|---|
| 面積 | 2,046.14 ha | 保護対象 | 無意根山周辺地域の生物群集を有する森林 |
| モニタリング間隔 | 10年ごとにモニタリング | | |




※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

### R7モニタリング結果・評価

確認された影響[特になし]
・高山性草原、高山性低木林、ハイマツ帯において、比較的健全な生育状況であった。
・気象害等は確認されなかった
・本地域はおおむね良好に保護・管理されている。
・引き続き、巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

【モニタリング調査項目】
・資料調査（森林生態系多様性基礎調査（樹木・下層植生））：4地点

### 次回以降の取扱い（案）

モニタリング間隔が10年に設定されている保護林であり、前回のモニタリングから5年後に当たる令和12年度は保護林内にて実施されている森林生態系多様性基礎調査の結果を資料調査として活用する。

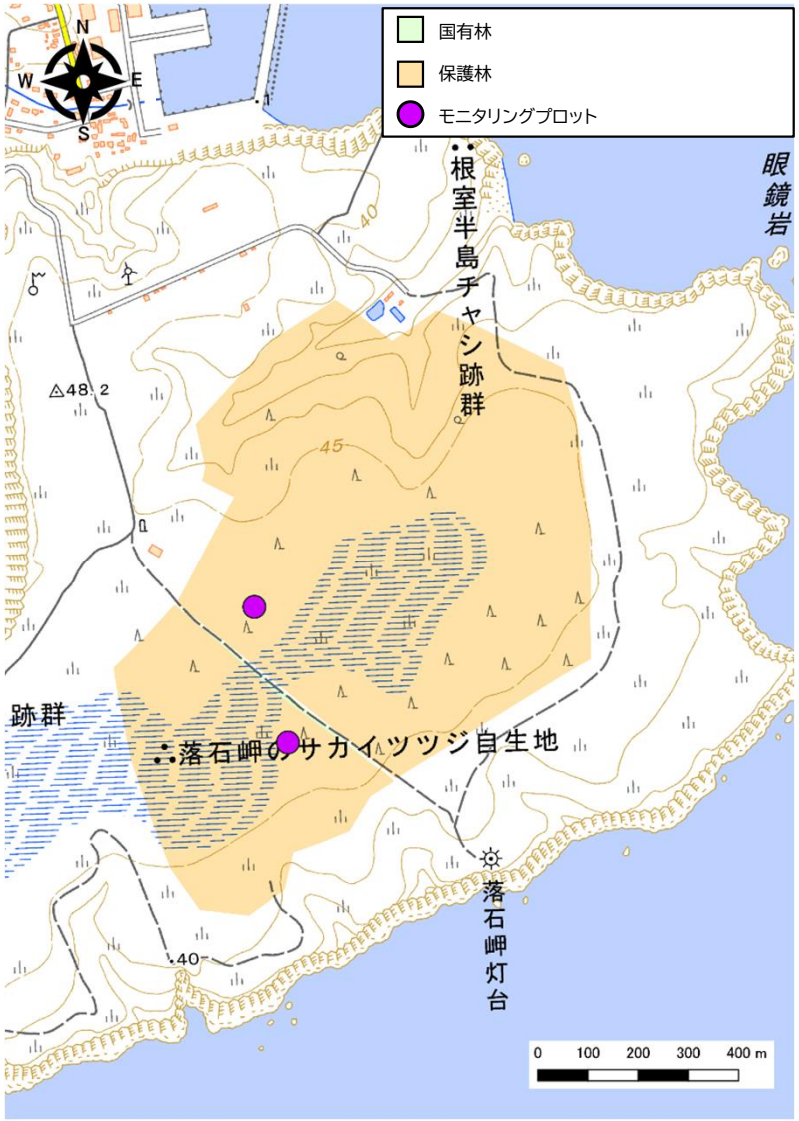
なお、森林生態系多様性基礎調査が実施されない場合は、職員による簡素な現況調査を実施することとする。

・資料調査（森林生態系多様性基礎調査）

# 令和7年度保護林モニタリング調査の結果を踏まえた次回以降の取扱い（個票）

## 落石サカイツツジ希少個体群保護林

| 面積 | 74.03 ha | 保護対象 | サカイツツジ |
|---|---|---|---|
| モニタリング間隔 | 10年ごとにモニタリング | | |




※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

### 令和7年度モニタリング評価・課題・提案

確認された影響[自然撹乱]
・針葉樹林帯および湿地帯に大きな変化は確認されなかった。
・アカエゾマツに軽微な風害がみられたが更新も確認された。
・サカイツツジは個体数が増加し、良好な状態であった。

【モニタリング調査項目】
・森林詳細調査（樹木・下層植生・病虫害等）：2地点

### 次回以降の取扱い（案）

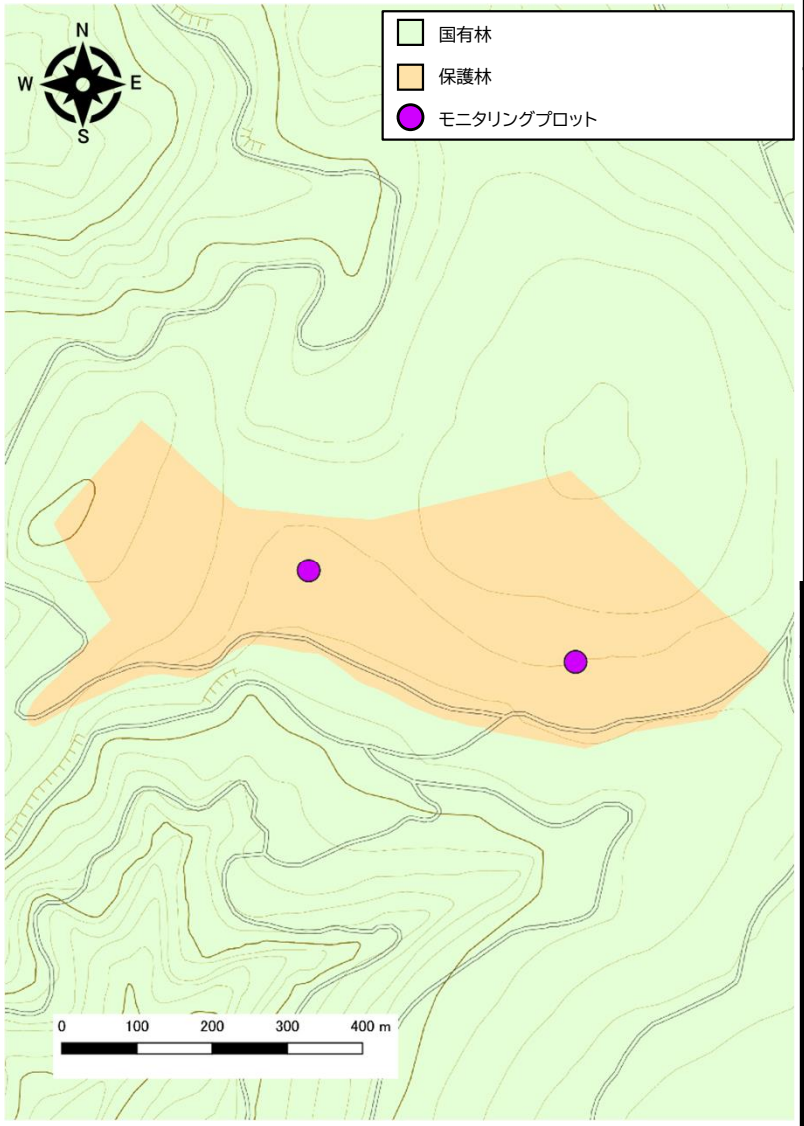
モニタリング間隔が10年に設定されている保護林であり、前回のモニタリングから5年後に当たる令和12年度は職員による簡素な現況調査を実施することとする。

・職員による簡素な現況調査

# 令和7年度保護林モニタリング調査の結果を踏まえた次回以降の取扱い（個票）

## 定山渓ダケカンバ遺伝資源希少個体群保護林

| | | | |
|---|---|---|---|
| 面積 | 23.43 ha | 保護対象 | ダケカンバ |
| モニタリング間隔 | 10年ごとにモニタリング | | |




※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

### 令和7年度モニタリング評価・課題・提案

確認された影響[特になし]

・ダケカンバの立木はおおむね健全であった。
・林床ではササが一斉に枯死していた。
・ササ枯れにより様々な樹木の実生が発生していたが、ダケカンバの実生はやや少なかった。今後はその他広葉樹が生長していくと考えられる。
・引き続きモニタリングによる経過を観察していく。

【モニタリング調査項目】
・森林概況調査（樹木・下層植生・病虫害等）：1ルート

### 次回以降の取扱い（案）

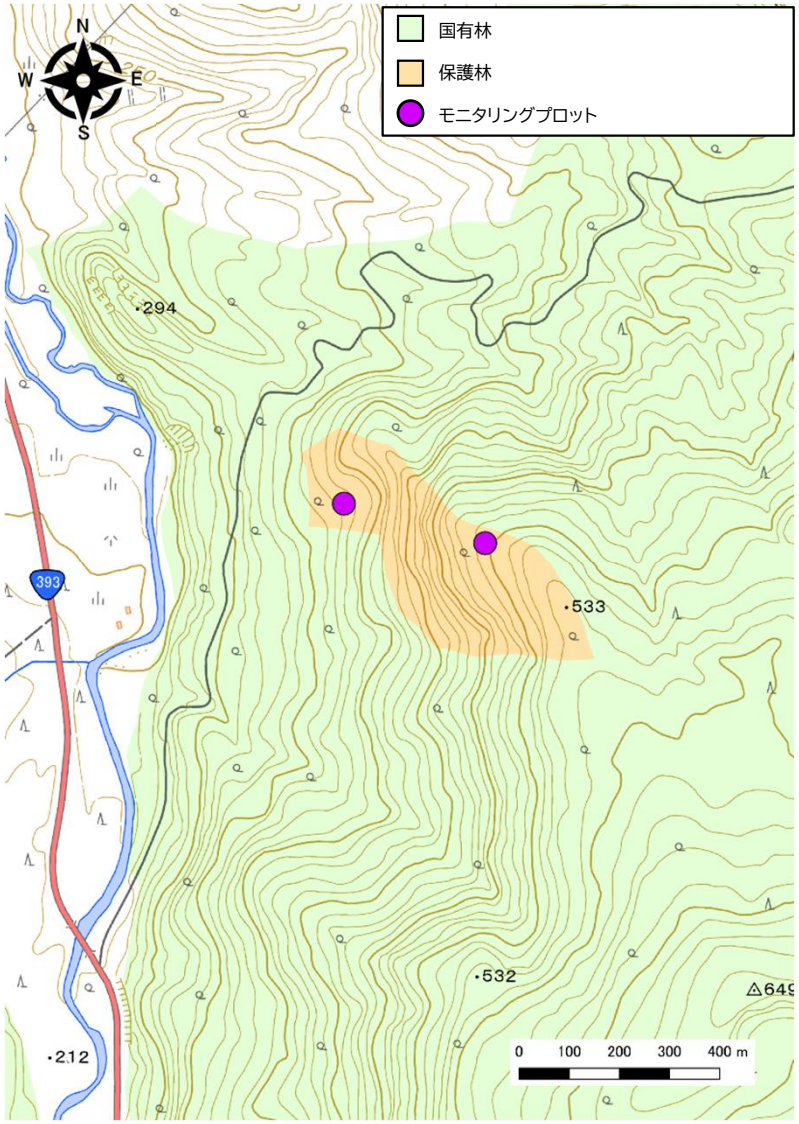
モニタリング間隔が10年に設定されている保護林であり、前回のモニタリングから5年後に当たる令和12年度は職員による簡素な現況調査を実施することとする。

・職員による簡素な現況調査

# 令和7年度保護林モニタリング調査の結果を踏まえた次回以降の取扱い（個票）

## 明治ダケカンバ遺伝資源希少個体群保護林

| 面積 | 12.23 ha | 保護対象 | ダケカンバ |
|---|---|---|---|
| モニタリング間隔 | 10年ごとにモニタリング | | |




※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

### 令和7年度モニタリング評価・課題・提案

確認された影響[特になし]

・ダケカンバの立木の生育状態はおおむね健全であった。
・天然更新は少なかった。
・ダケカンバは陽樹であり、その他の樹木の生育は良好であるため、現在の状況は遷移過程と考えられる。

【モニタリング調査項目】

・森林概況調査（樹木・下層植生・病虫害等）：1ルート

### 次回以降の取扱い（案）

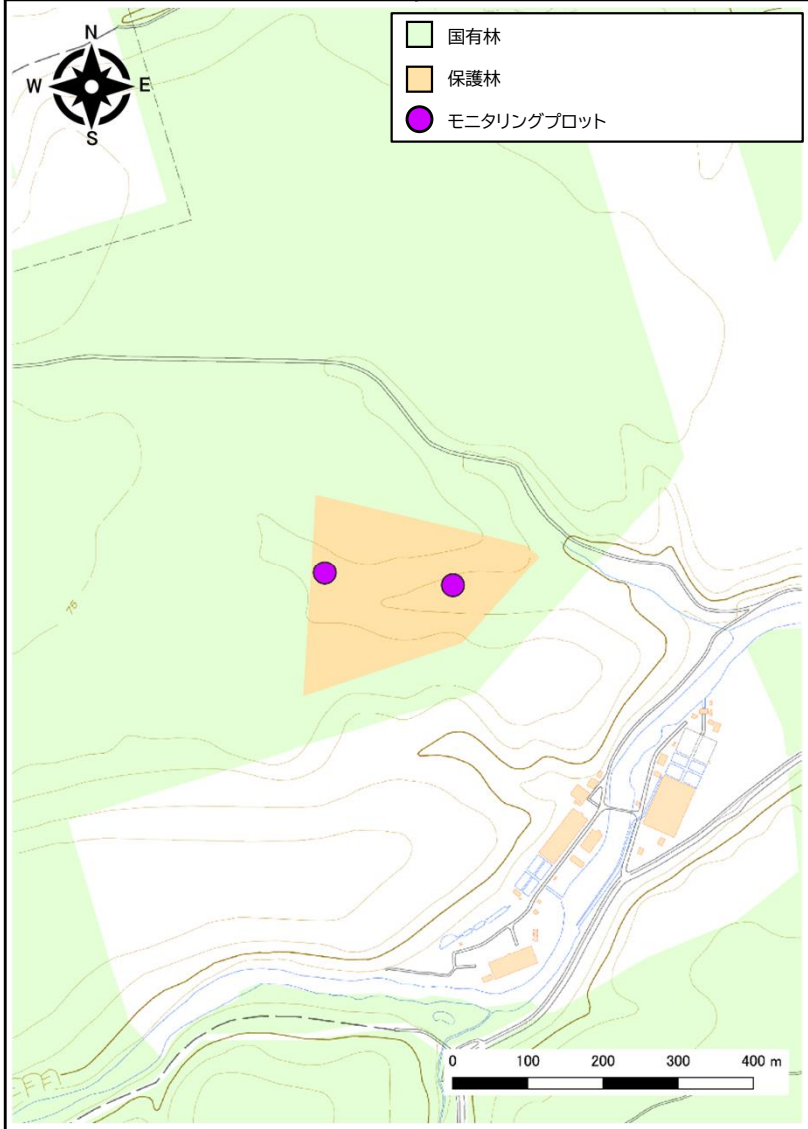
モニタリング間隔が10年に設定されている保護林であり、前回のモニタリングから5年後に当たる令和12年度は職員による簡素な現況調査を実施することとする。

・職員による簡素な現況調査

# 令和7年度保護林モニタリング調査の結果を踏まえた次回以降の取扱い（個票）

## 千歳ハルニレ遺伝資源希少個体群保護林

| | | | |
|---|---|---|---|
| 面積 | 7.90 ha | 保護対象 | ハルニレ |
| モニタリング間隔 | 10年ごとにモニタリング | | |




※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

### 7年度モニタリング評価・課題・提案

確認された影響[特になし]

・ハルニレの立木はおおむね健全であり、大径木も生育していた。

・稚樹や実生は確認されず、萌芽が一部確認されたのみであり、天然更新が少ない状況であった。

・今後は天然更新に留意しつつ、引き続きモニタリングにより経過を観察していく。

【モニタリング調査項目】

・森林概況調査（樹木・下層植生・病虫害等）：1ルート

### 次回以降の取扱い（案）

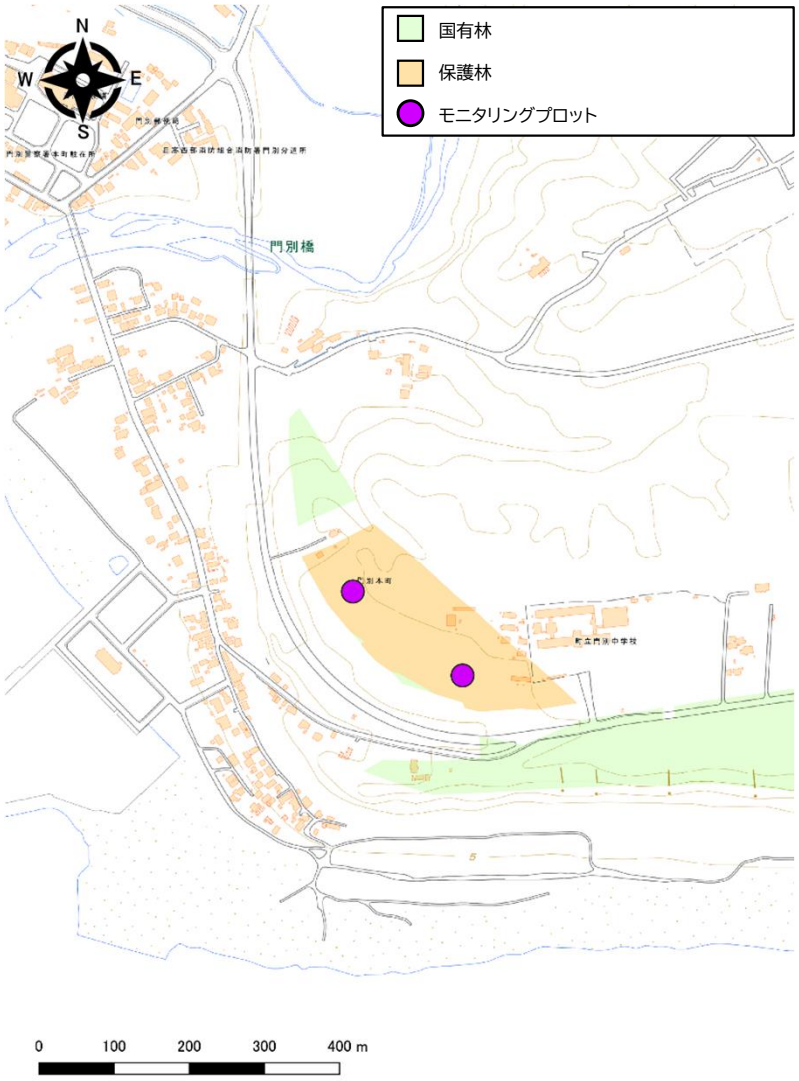
モニタリング間隔が10年に設定されている保護林であり、前回のモニタリングから5年後に当たる令和12年度は職員による簡素な現況調査を実施することとする。

・職員による簡素な現況調査

# 令和7年度保護林モニタリング調査の結果を踏まえた次回以降の取扱い（個票）

## 門別カシワ遺伝資源希少個体群保護林

| 面積 | 3.88 ha | 保護対象 | カシワ |
|---|---|---|---|
| モニタリング間隔 | 10年ごとにモニタリング | | |




※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

### 7年度モニタリング評価・課題・提案

確認された影響[特になし]
・カシワの立木は健全であった。
・カシワの実生は確認されたが、稚樹や低木は少なかった。
・その他広葉樹の低木はある程度確認された。
・保全状況は良好だが、今後の天然更新に留意し、シカ被害や気象害を含め継続的にモニタリングする。

【モニタリング調査項目】
・森林概況調査（樹木・下層植生・病虫害等）：1ルート

### 次回以降の取扱い（案）

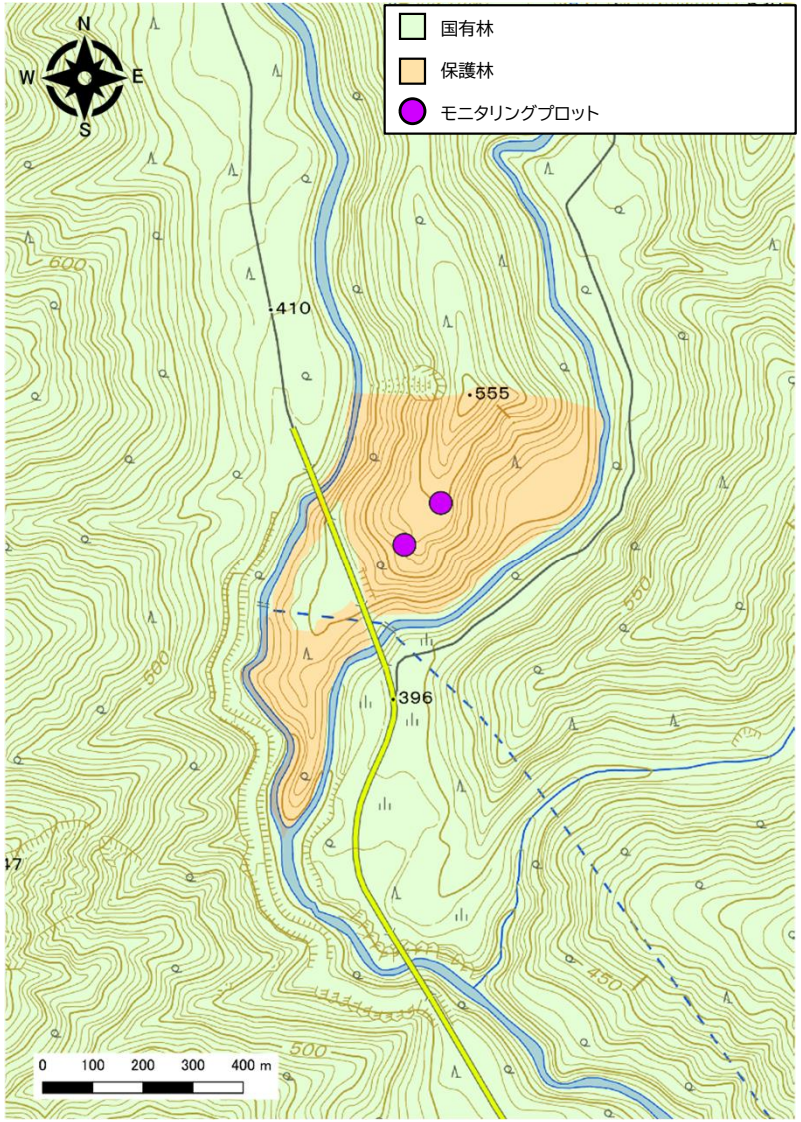
モニタリング間隔が10年に設定されている保護林であり、前回のモニタリングから5年後に当たる令和12年度は職員による簡素な現況調査を実施することとする。

・職員による簡素な現況調査

# 令和7年度保護林モニタリング調査の結果を踏まえた次回以降の取扱い（個票）

## 春別ミズナラ遺伝資源希少個体群保護林

| 面積 | 21.36 ha | 保護対象 | ミズナラ |
|---|---|---|---|
| モニタリング間隔 | 10年ごとにモニタリング | | |




※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

### 7年度モニタリング評価・課題・提案

確認された影響[特になし]

・ミズナラの立木の状態は健全であった。
・林床にはミズナラ等の実生が確認された。
・シカの影響や気象害等を注視しつつ、引き続きモニタリングにより経過を観察していく。

【モニタリング調査項目】

・森林概況調査（樹木・下層植生・病虫害等）：1ルート

### 次回以降の取扱い（案）

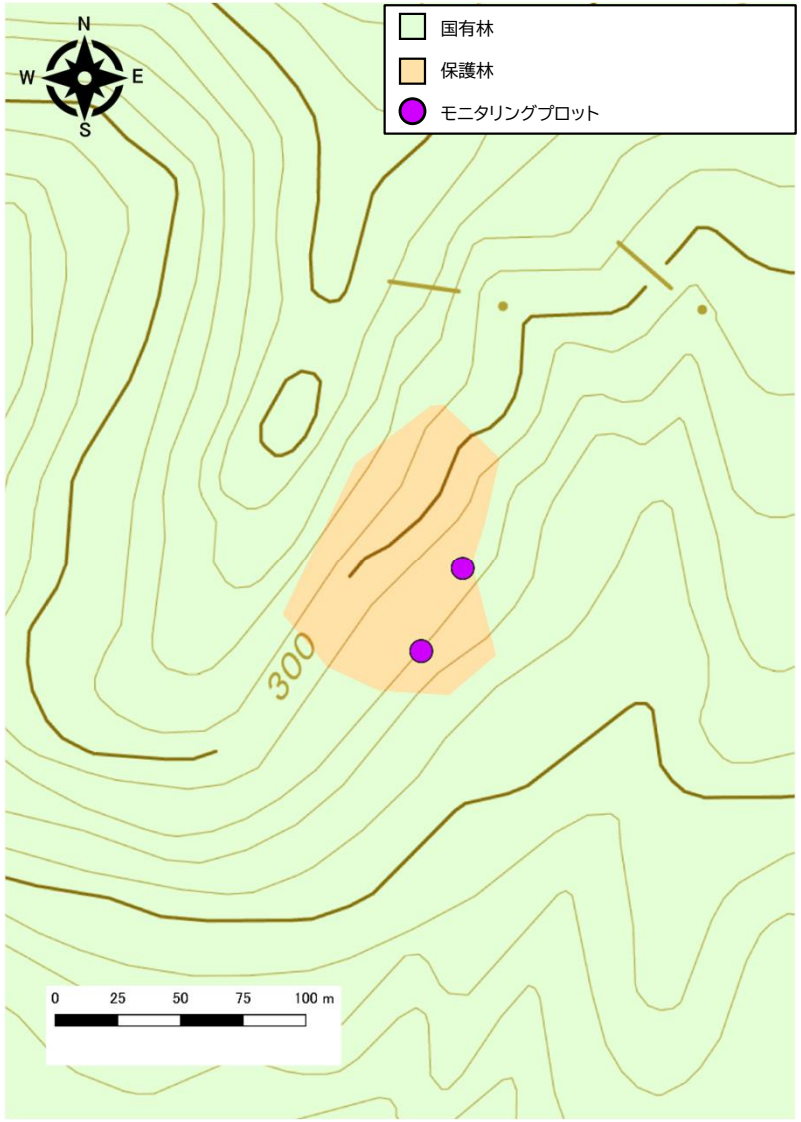
モニタリング間隔が10年に設定されている保護林であり、前回のモニタリングから5年後に当たる令和12年度は職員による簡素な現況調査を実施することとする。

・職員による簡素な現況調査

# 令和7年度保護林モニタリング調査の結果を踏まえた次回以降の取扱い（個票）

## 三石カツラ遺伝資源希少個体群保護林

| 面積 | 0.67 ha | 保護対象 | カツラ |
|---|---|---|---|
| モニタリング間隔 | 10年ごとにモニタリング | | |




※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

### 7年度モニタリング評価・課題・提案

確認された影響[野生鳥獣]
・良好なカツラの立木が多く確認された。
・林床にはシカの痕跡が多かった。
・カツラの天然更新は確認されなかった。
・今後はカツラの更新状況に留意しつつ、引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

【モニタリング調査項目】
・森林概況調査（樹木・下層植生・病虫害等）：1ルート

### 次回以降の取扱い（案）

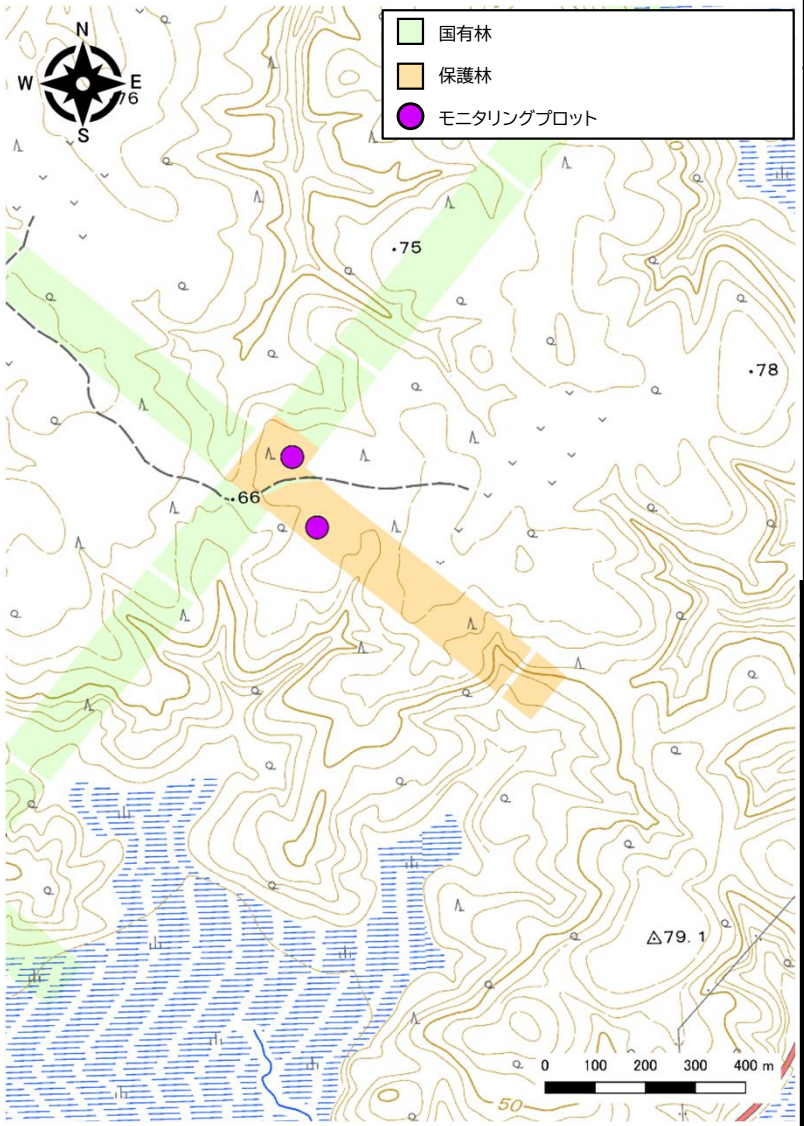
モニタリング間隔が10年に設定されている保護林であり、前回のモニタリングから5年後に当たる令和12年度は職員による簡素な現況調査を実施することとする。

・職員による簡素な現況調査

# 令和7年度保護林モニタリング調査の結果を踏まえた次回以降の取扱い（個票）

## 真竜ダケカンバ遺伝資源希少個体群保護林

| 面積 | 8.67 ha | 保護対象 | ダケカンバ |
|---|---|---|---|
| モニタリング間隔 | 10年ごとにモニタリング | | |




※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

### 7年度モニタリング評価・課題・提案

確認された影響[特になし]
・前回調査から林相に大きな変化は確認されなかった。
・ダケカンバの立木は健全であったが、個体数は少なかった。
・ダケカンバは陽樹であり、その他樹木の生育は良好であるため、遷移過程と考えられる。
・気象害等を注視つつ、引き続き巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

【モニタリング調査項目】
・森林概況調査（樹木・下層植生・病虫害等）：1地点

### 次回以降の取扱い（案）

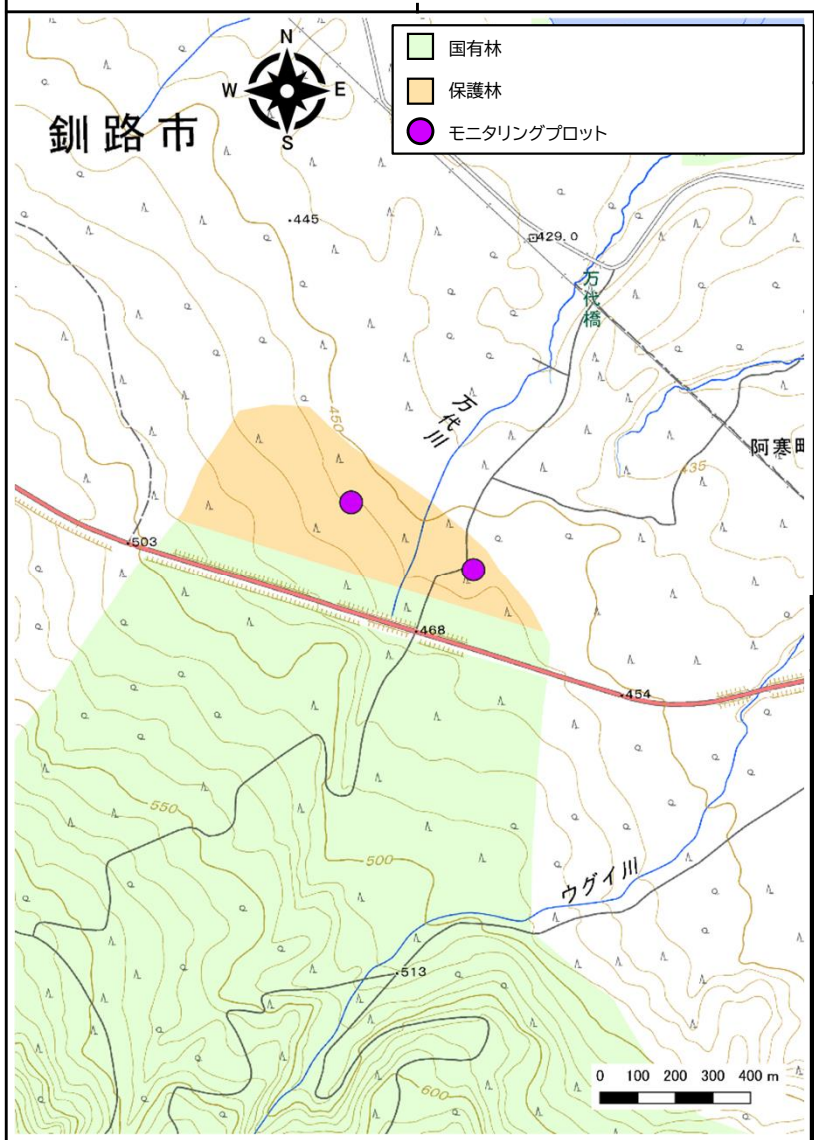
モニタリング間隔が10年に設定されている保護林であり、前回のモニタリングから5年後に当たる令和12年度は職員による簡素な現況調査を実施することとする。

・職員による簡素な現況調査

# 令和7年度保護林モニタリング調査の結果を踏まえた次回以降の取扱い（個票）

## 阿寒湖畔エゾマツ遺伝資源希少個体群保護林

| 面積 | 23.90 ha | 保護対象 | エゾマツ |
|---|---|---|---|
| モニタリング間隔 | 10年ごとにモニタリング | | |




※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

### 7年度モニタリング評価・課題・提案

確認された影響[特になし]

・エゾマツは大径木も確認され、おおむね健全であった。

・エゾマツの稚樹や実生は少ない。

・保護林は良好に保護・管理されているが、今後の天然更新には留意が必要である。

【モニタリング調査項目】

・森林概況調査（樹木・下層植生・病虫害等）：1ルート

### 次回以降の取扱い（案）

モニタリング間隔が10年に設定されている保護林であり、前回のモニタリングから5年後に当たる令和12年度は職員による簡素な現況調査を実施することとする。

・職員による簡素な現況調査